

館山市まち・ひと・しごと創生  
(館山市人口ビジョン)  
**総合戦略**



平成29年8月改訂版  
**千葉県館山市**



# 目 次

「館山市人口ビジョン」「館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(概要)	1
<b>第1章 館山市人口ビジョン</b>	<b>2</b>
<b>第1節 はじめに</b>	<b>2</b>
1. 館山市人口ビジョンの位置付け	2
2. 国の長期ビジョン	2
3. 千葉県人口ビジョン（暫定）	3
<b>第2節 館山市の人口分析</b>	<b>4</b>
1. 人口の現状分析と将来推計	4
(1) 総人口の推移	4
(2) 年齢3区分別人口の推移	5
(3) 出生・死亡数、転入・転出の推移	6
(4) 自然増減と社会増減の影響	7
2. 人口移動分析	8
(1) 性別・年齢階級別人口移動の状況	8
(2) 人口移動の最近の状況	10
(3) 転入者・転出者の状況	11
(4) 通勤・通学者の状況	15
3. 出生に関する分析	19
(1) 合計特殊出生率の推移	19
(2) 出生数に対する母親の年齢階層比率の推移	19
(3) 結婚・出産・子育て世代の人口推移	20
4. 雇用や就労等に関する分析	21
(1) 産業別就業者数と特化係数	21
(2) 求人状況	22
(3) 職業別・産業別求人状況	24
<b>第3節 人口減少問題に取り組む基本的視点</b>	<b>25</b>
<b>第4節 人口の将来展望</b>	<b>26</b>
1. 目指すべき将来の方向	26
2. 人口の将来展望	28

<b>第2章 館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略</b>	30
<b>第1節 はじめに</b>	30
1. 総合戦略について	30
2. 基本方針	30
(1) 基本的な考え方	30
(2) 他の戦略・計画との関係	30
(3) 総合戦略の取組体制	31
3. 総合戦略の構成	31
(1) 基本目標	31
(2) 目指す方向性（政策分野）と講ずべき施策	32
(3) 具体的な施策内容（主な事業等）	32
(4) 数値目標・重要業績評価指標（KPI）の設定	32
4. 総合戦略の計画期間	32
<b>第2節 施策の展開</b>	33
基本目標① “海” の魅力に磨きをかける ～海の魅力アップ～	33
基本目標② “食” の豊かさで人をひきつける ～食の豊かさアップ～	39
基本目標③ “若者” の夢と希望をかなえる ～若者の元気アップ～	43
基本目標④ 未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ ～ふるさとへの誇りアップ～	48
<b>用語説明</b>	55

(用語説明のある言葉には、※を付けてあります。)

# 第1章 館山市人口ビジョン

## 第1節 はじめに

### 1. 館山市人口ビジョンの位置付け

国において、『まち・ひと・しごと創生法』(平成26年法律第136号)が制定され、平成26年12月27日に、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」(以下「国の長期ビジョン」という。)及び、今後5カ年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「国の総合戦略」という。)が閣議決定されました。

これを受け、地方公共団体においては、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案した中で、地方版の人口ビジョン及び総合戦略の策定に努めることとされています。

そこで、今後取り組むべき施策を検討する上で重要な館山市の人口に関する認識を市全体で共有し、議論を深め、一体となって取り組んでいくために、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示します。

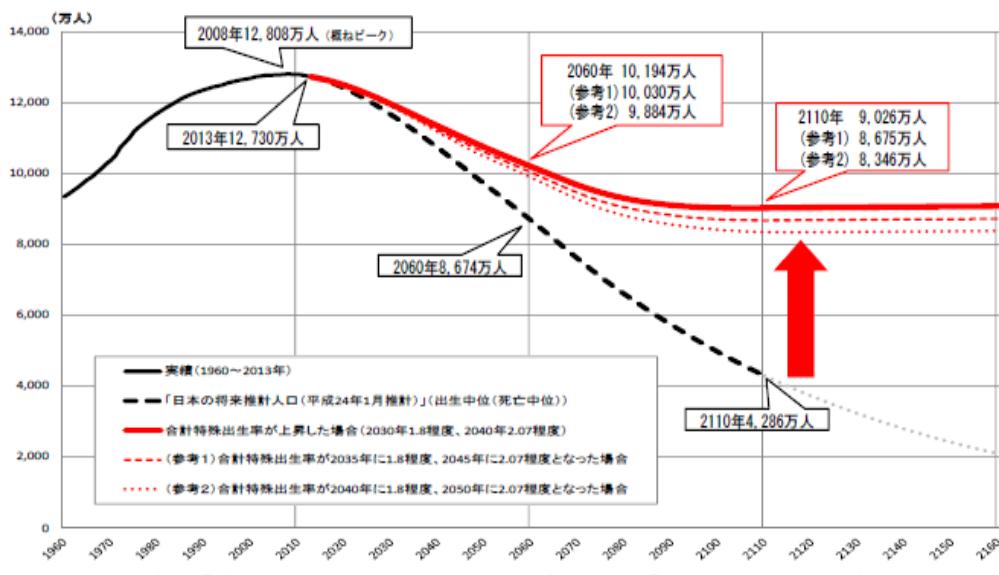
### 2. 国の長期ビジョン

#### (1) 我が国の人囗推移と長期的な見通し

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」によると、国の2060年の総人口は約8,700万人まで減少すると見通されています。

仮に、合計特殊出生率※が2030年に1.80程度、2040年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計されます。

また、合計特殊出生率の改善が早期であるほど、その効果は大きいと考えられます。



(注1)実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」は出生中位(死亡中位)の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。  
(注2)「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

【出展】内閣官房まち・ひと・しごと創生本部

## (2) 目指すべき将来の方向

- ◆ 2060 年に 1 億人程度の人口確保
- ◆ 2050 年代に実質 GDP 成長率 1.5~2% 程度維持

## (3) 今後の基本的視点

- ◆ 「東京一極集中」の是正
- ◆ 若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ◆ 地域の特性に即した地域課題の解決

# 3. 千葉県人口ビジョン（暫定）（平成 27 年 9 月現在千葉県公表案より）

## (1) 千葉県の人口推移

社人研の推計準拠（一部再計算）によると、千葉県の総人口は、2060 年には 433.5 万人と、2010 年からの 50 年間で、約 188 万人、30.3% の減少、また、生産年齢人口は、407.1 万人から 222.9 万人と、45.2% の減少と見込まれています。

## (2) 目指すべき将来の方向

- ◆ 「くらし満足度日本一」の千葉
  - ・国内外の人々が集う千葉の実現～人口の社会増～
  - ・親子の笑顔が溢れる千葉の実現～少子化への挑戦～
  - ・オール千葉で支えあう安全・安心に暮らせる千葉の実現～人口減少社会に対応した県づくり～

## (3) 千葉県の将来人口

社人研推計準拠により、各仮定値により、2060 年の人口を推計した結果は次のとおりです。

### 【パターン1】518 万人

- ・合計特殊出生率※：2030 年に 1.80、2040 年に 2.07（国準拠）と仮定

### 【パターン2】541 万人

- ・合計特殊出生率：上記パターン1 と同様
- ・社会移動：転出者のうち、23.7%（千葉県への再居住に関するアンケートにおいて、千葉県に「とても住みたい」とする人の割合）が戻ると仮定

### 【パターン3】576 万人

- ・合計特殊出生率：上記パターン1 と同様
- ・社会移動：転出者のうち、53.1%（千葉県への再居住に関するアンケートにおいて、千葉県に「とても住みたい」「やや住みたい」とする人の割合）が戻ると仮定

## 第2節 館山市の人口分析

### 1. 人口の現状分析と将来推計

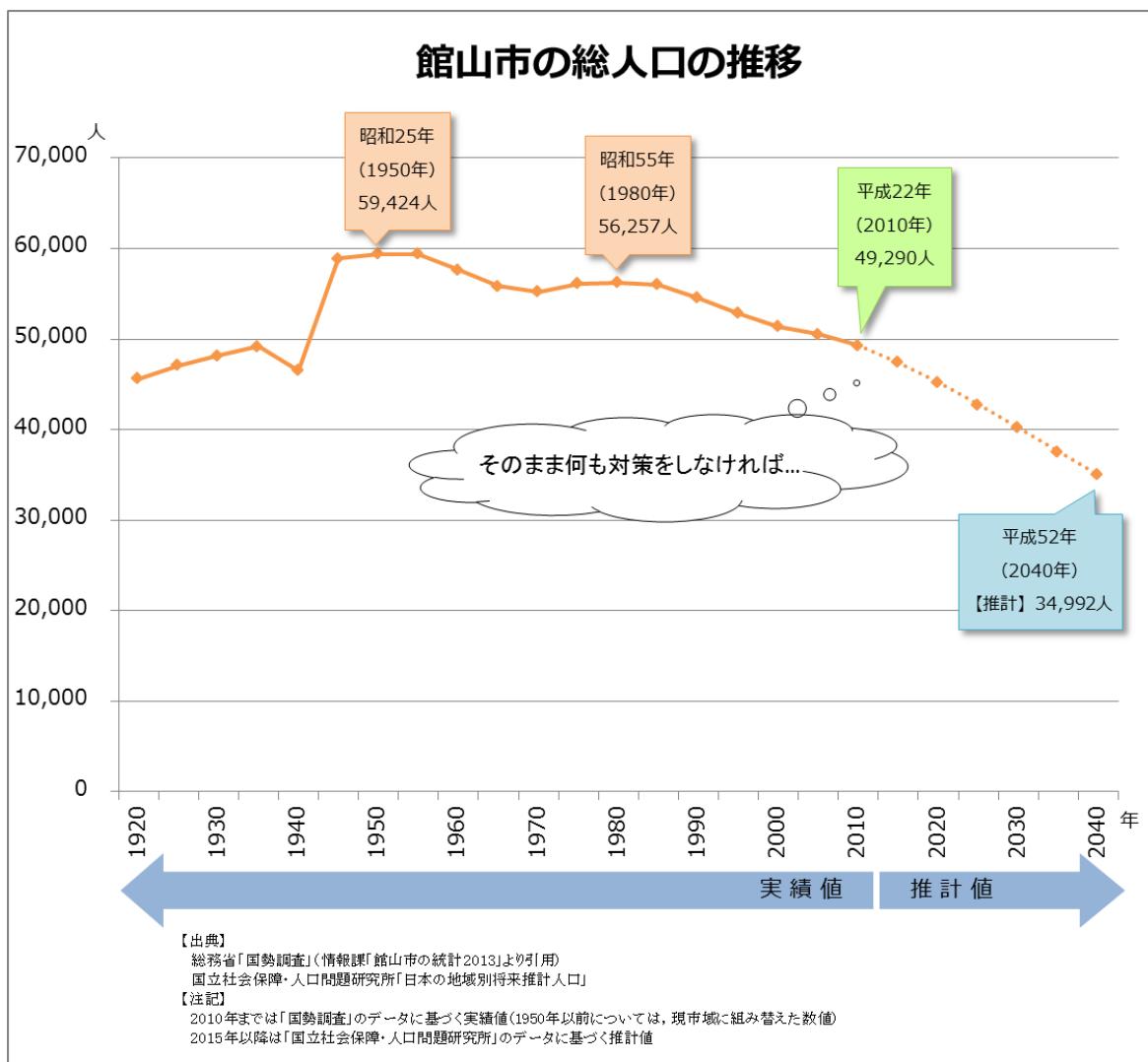
#### (1) 総人口の推移

館山市の総人口の推移をみると、第二次世界大戦後の復興期、1950年の59,424人をピークに、1955～1970年までの高度経済成長期には減少基調となっていました。

これは、全国の多くの地方自治体にみられる大都市圏への人口流出があったものと考えられます。

その後の安定成長期には一時的に持ち直しの動きがみられましたが、1980年の56,257人を頭打ちに、再び減少に転じ、近年はその傾向が強まっています。

社人研の推計によれば、2015年以降の人口減少はさらに加速化し、2040年には、約35,000人まで減少すると推計されています。

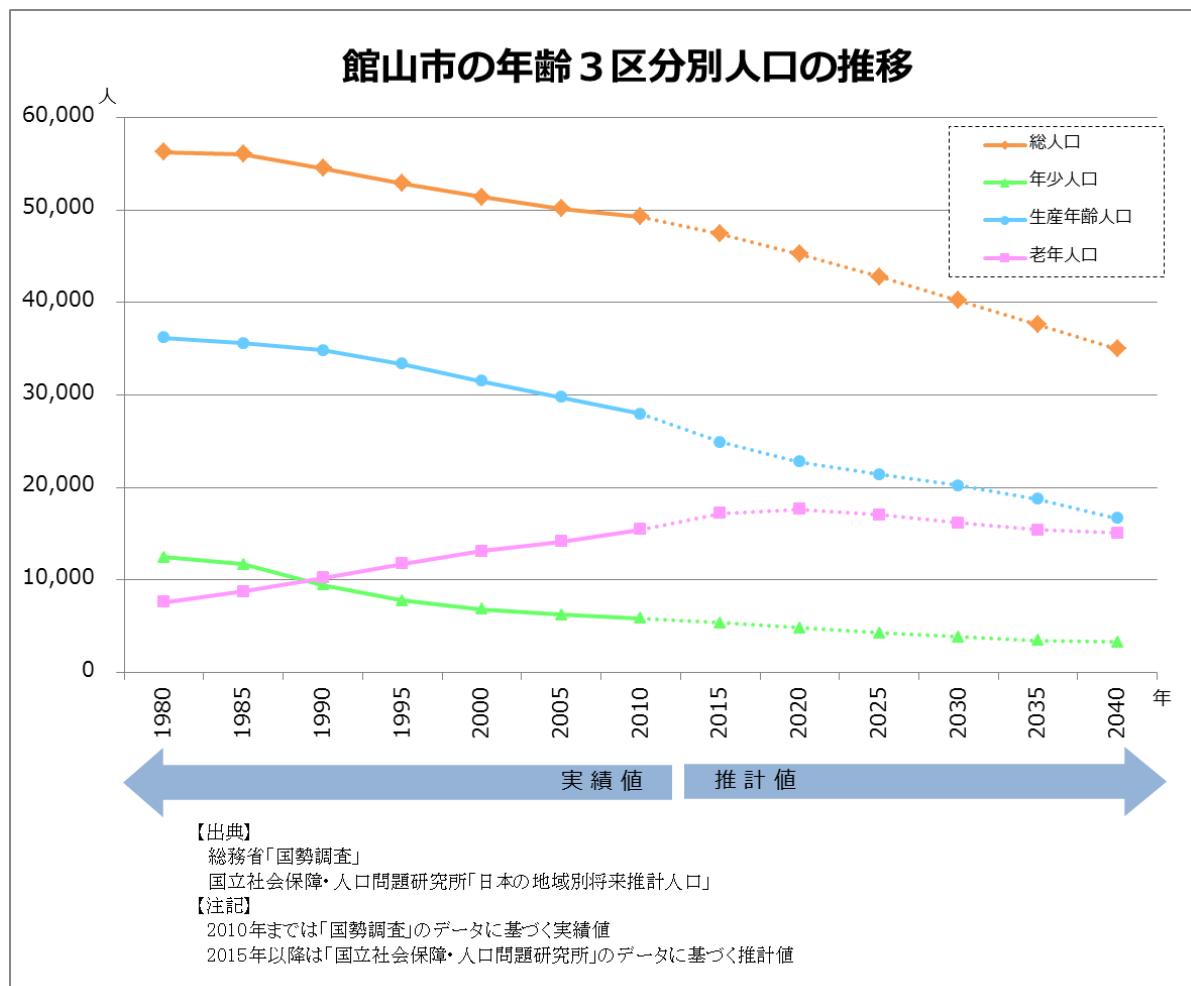


## (2) 年齢3区別人口の推移

総人口が、1980年から減少を続けているのと同様に、生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口（0～14歳）も、減少が続いている。

一方で、老人人口（65歳以上）は増加を続け、1990年からは老人人口が、年少人口を上回る状態となっています。

社人研の推計によると、生産年齢人口及び年少人口は、今後も減少基調をたどりますが、老人人口は2020年で頭打ちとなり、その後はゆるやかに減少に転じると推計されています。



### (3) 出生・死亡数、転入・転出の推移

#### ① 自然動態（出生数－死亡数）

1995年以前から、自然減（出生数<死亡数）が続いており、その傾向は強まっています。

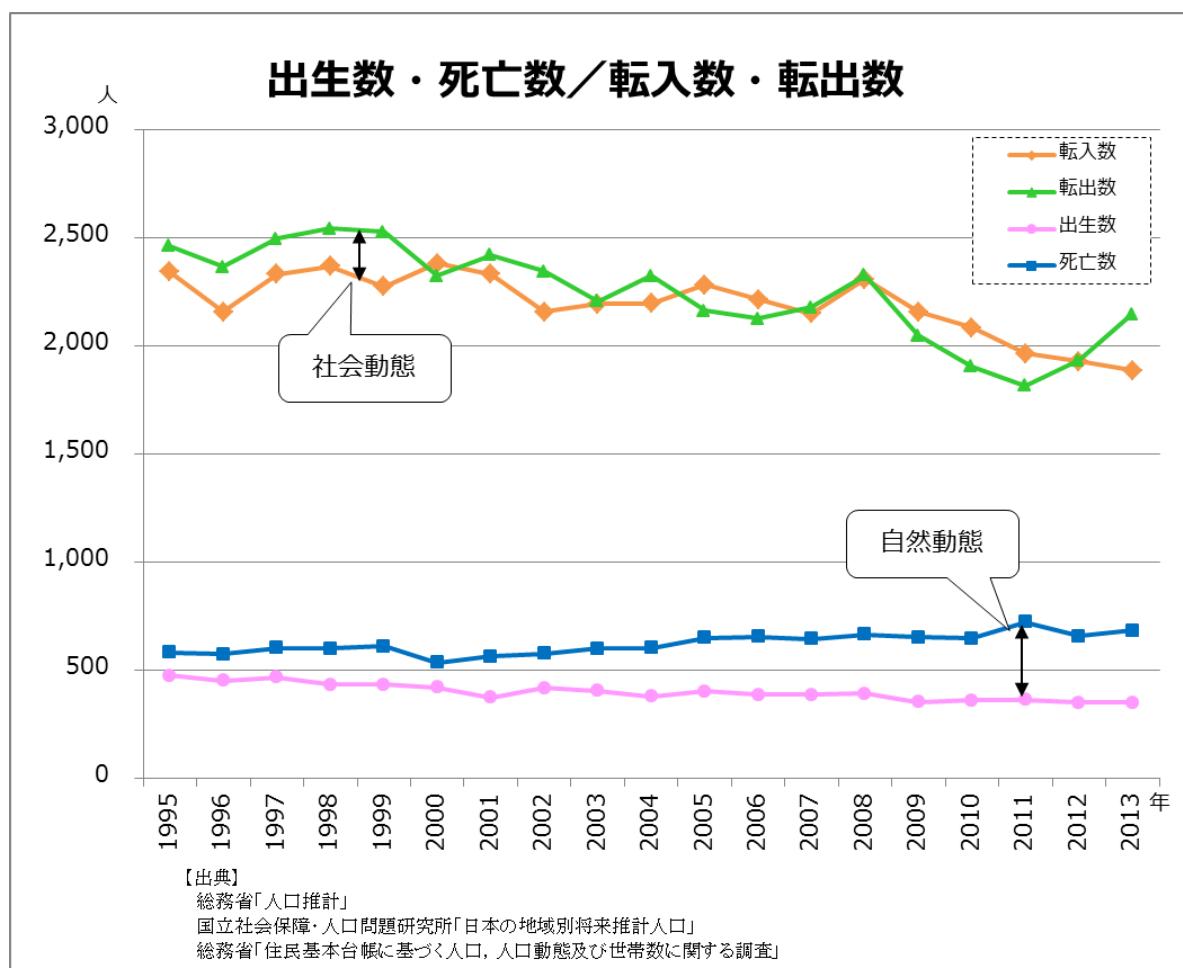
また、老人人口の増加から、その流れは今後も続くものと考えられます。

#### ② 社会動態（転入数－転出数）

年による変動が大きく、傾向はつかみづらくなっています。

近年は社会増の傾向も見受けられましたが、2013年には一転して社会減となっています。

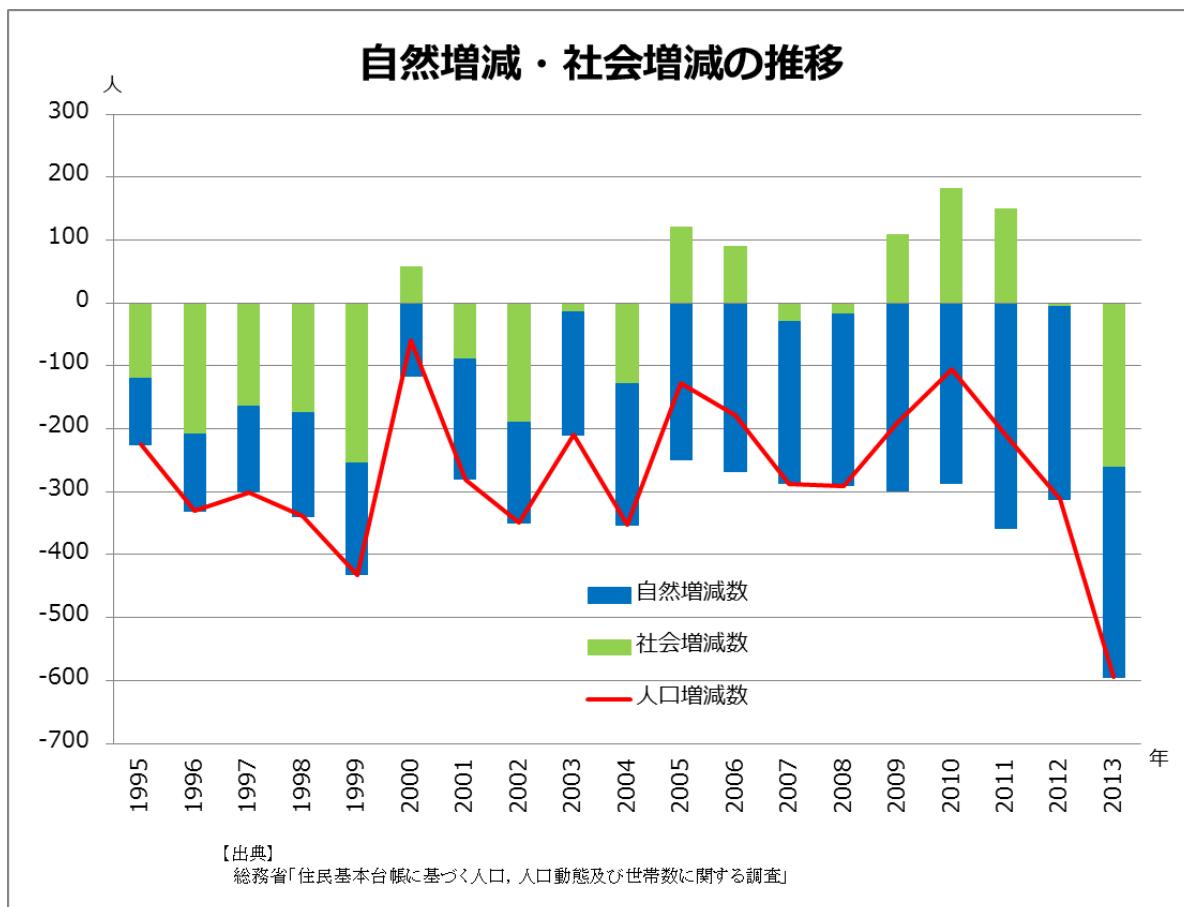
なお、人口規模の縮小を反映してか、転入数・転出数ともに、年々減少傾向にあります。



## (4) 自然増減と社会増減の影響

「自然増減数」(一貫して自然減のみ)と「社会増減数」を合わせた「人口増減数」は、毎年減少(マイナス値)となっています。

また、自然減の人数は、年々増加傾向にあります。



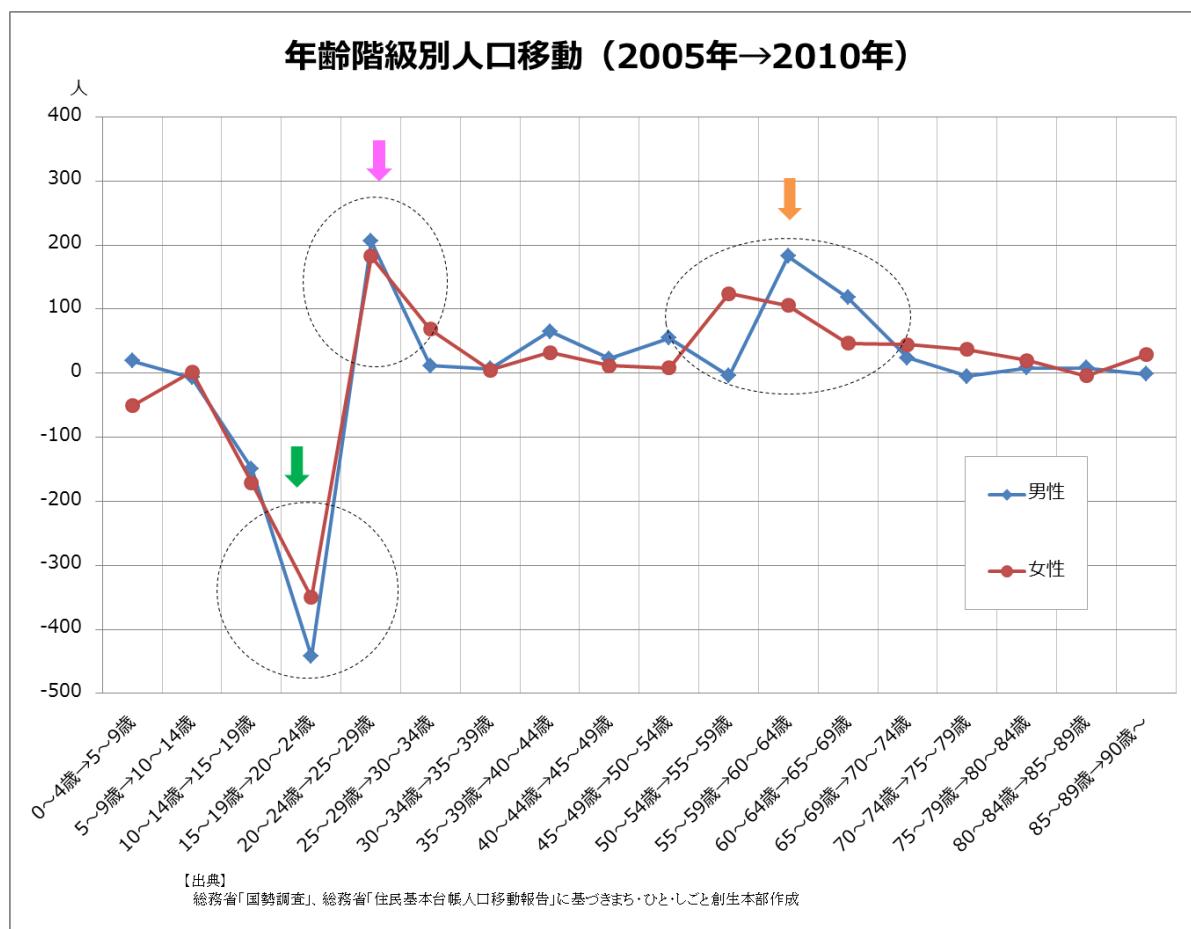
## 2. 人口移動分析

### (1) 性別・年齢階級別人口移動の状況

男女ともに、10～14歳→15～19歳、15～19歳→20～24歳の年齢階級において大幅な転出超過があります。（↓）これは、高校や大学等への進学に伴う転出と、高卒者の就職のための転出と考えられます。

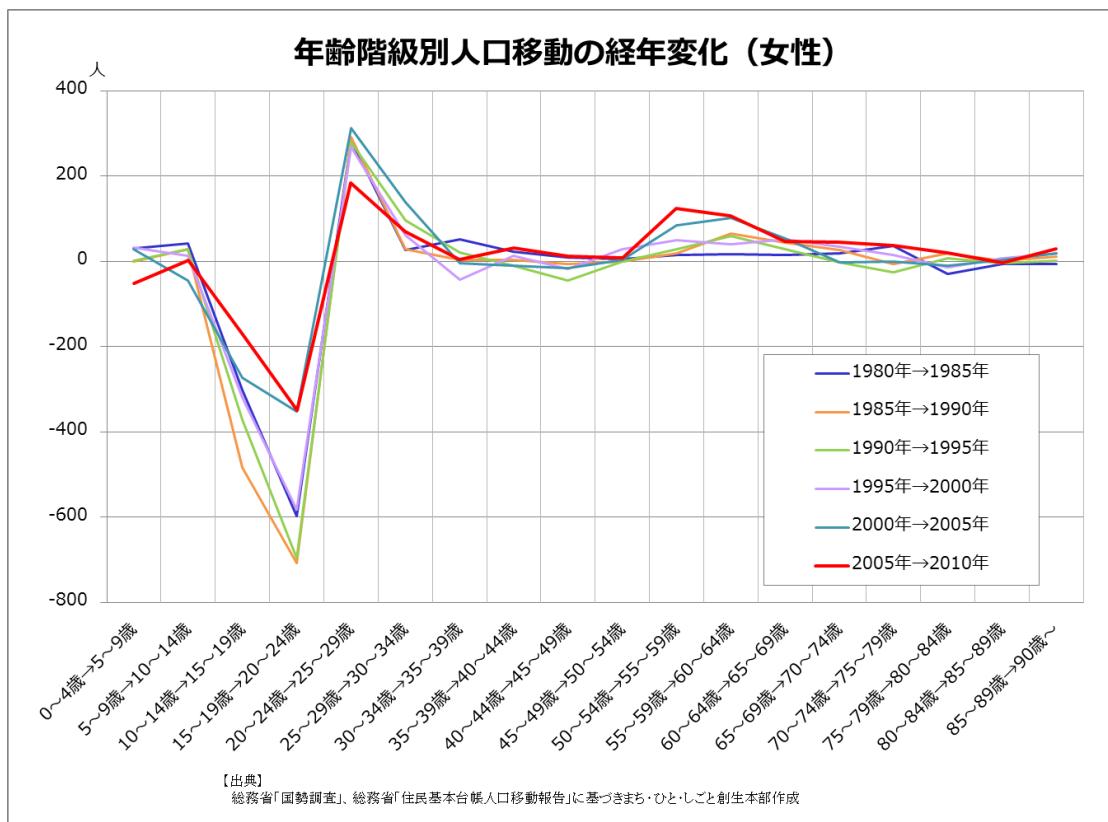
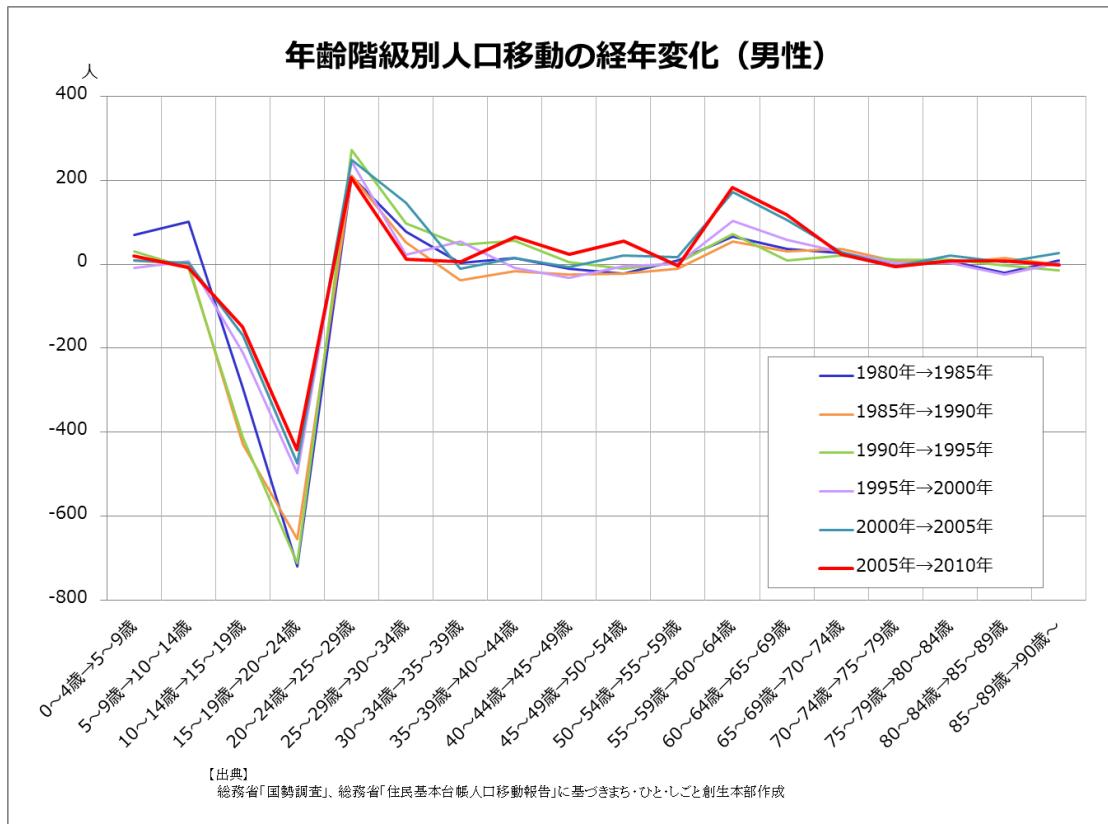
一方、20～24歳→25～29歳においては、転入超過があります。（↑）これは、大学卒業後のUターン等と考えられ、多くの地方都市はほぼ同様の傾向にあります。

また、男性の55～59歳→60～64歳と60～64歳→65～69歳、女性の50～54歳→55～59歳と55～59歳→60～64歳の年齢階級において、転入超過がみられます。（↓）これは、男性の定年退職後のUターン等とそれに伴う配偶者の転入と考えられます。



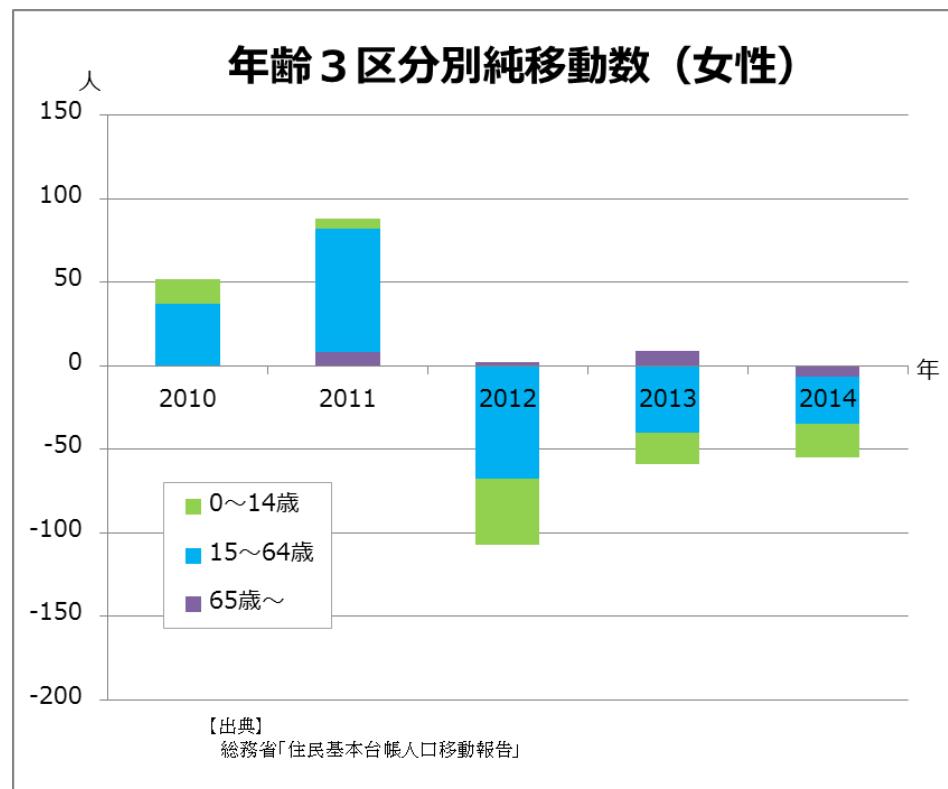
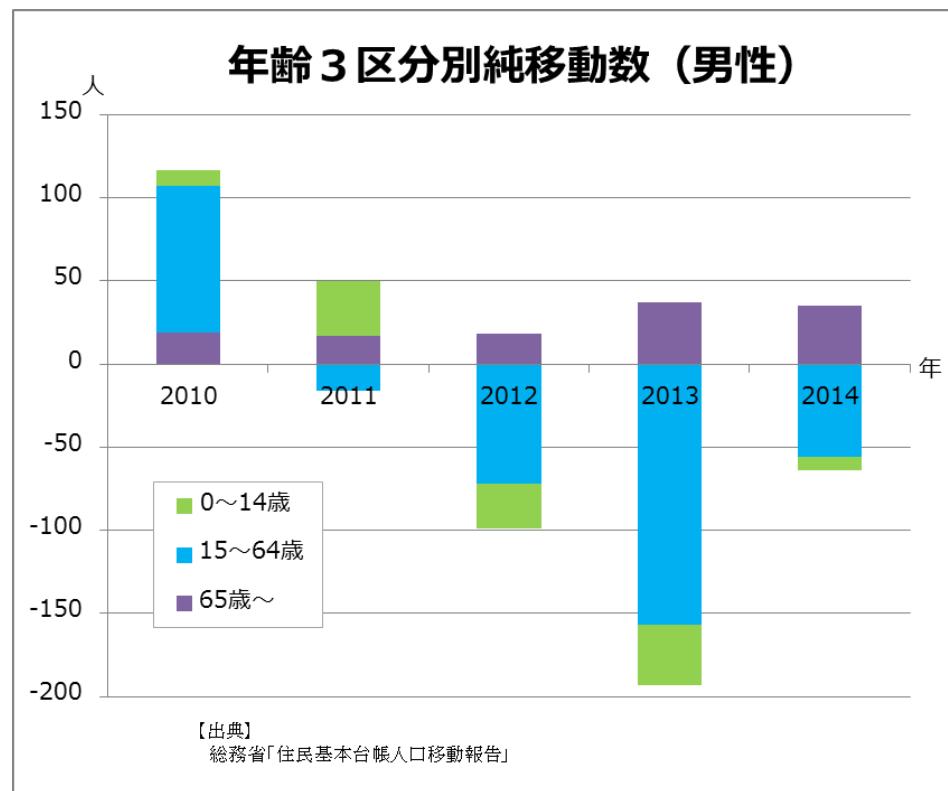
1980 年からの年齢階級別人口移動の経年変化をみると、男女ともに人口移動の幅は小さくなっています。これは、移動数による比較を行っているため、人口規模の縮小に比例しているものと考えられます。

一方で、50~69 歳に係る転入超過数は大きくなっています。これは、団塊世代の定年退職に伴う移動と考えられます。



## (2) 人口移動の最近の状況

直近5カ年の年齢3区分別純移動数をみると、2012年から、老人人口（65歳以上）を除き、転出超過となっていますが、2014年は転出超過幅が小さくなっています。



### (3) 転入者・転出者の状況

#### ① 市外への転出状況

2012~2014 年の3カ年の市外への転出状況を、転出超過数 10 人以上についてまとめたものが、下の図です。

3カ年を通じ、木更津市を中心とした君津以北への転出が主となっています。

加えて、東京都 23 区への転出と、海上自衛隊関連の移動と思われる転出が見受けられます。

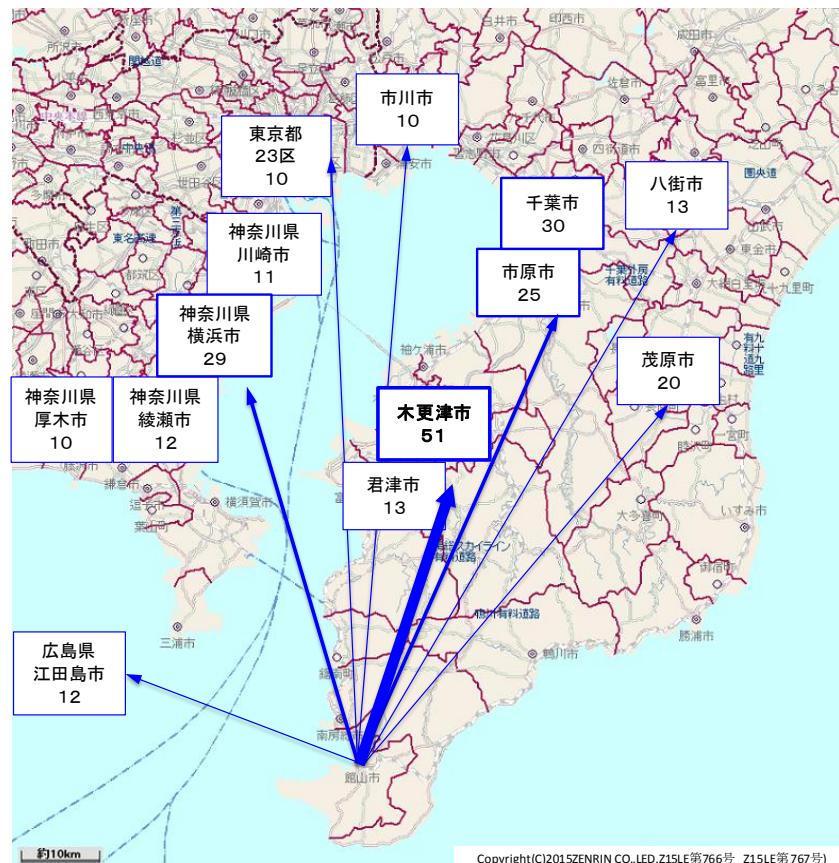
2012 年は特に、木更津市への転出超過が突出しており、85 人の超過となっています。

2012 年 転出状況 （※転出超過数 10 人以上について）



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表(年齢(10 歳階級)、男女、転入・転出市区町村別結果)」

## 2013年 転出状況（※転出超過数10人以上について）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表(年齢(10歳階級),男女、転入・転出市区町別結果)」

## 2014年 転出状況（※転出超過数10人以上について）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表(年齢(10歳階級),男女、転入・転出市区町別結果)」

## ② 市外からの転入状況

2012～2014年の3カ年の市外からの転入状況を、転入超過数10人以上についてまとめたのが、下の図です。

転入については、3カ年を通じて近隣市町からの転入と、海上自衛隊関連の移動と思われる転入が主となっています。

2012年 転入状況 （※転入超過数10人以上について）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表(年齢(10歳階級),男女,転入・転出市区町村別結果)」

## 2013年 転入状況（※転入超過数10人以上について）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表(年齢(10歳階級),男女,転入・転出市区町村別結果)」

## 2014年 転入状況（※転入超過数10人以上について）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表(年齢(10歳階級),男女,転入・転出市区町村別結果)」

## (4) 通勤・通学者の状況

2010年の国勢調査による通勤・通学者の状況は、以下のとおりです。

### ① 市外への通勤状況

2010年の国勢調査によると、館山市に常住する就業者は22,968人で、そのうち、市内で就業しているのは17,980人です。

市外への通勤者のうち、6割以上は近隣市町の南房総市・鴨川市・鋸南町への通勤者です。

また、富津市・君津市・木更津市・千葉市や、東京都への通勤も一定程度みられます。

### 市外への通勤状況（主な通勤先）



## ② 市外からの通勤状況

館山市における就業者は 24,349 人で、そのうち市内に常住しているのは、17,980 人です。

市外からの通勤者うち、8割以上は近隣市町である南房総市・鴨川市・鋸南町からの通勤者です。

その他、富津市・君津市・木更津市・千葉市や、東京都からも通勤しています。

### 市外からの通勤状況（主な居住地）



### ③ 市外への通学状況

館山市に常住する 15 歳以上の通学者は 1,623 人で、そのうち、市内で就学しているのは 1,216 人です。

市外への通学で多いのは、安房管内の高等学校への通学（南房総市・鴨川市）です。

次いで、木更津市・君津市・千葉市・習志野市への通学の他、県外への通学者（東京都・神奈川県）もいます。

なお、通学者の中には、大学等への通学も含まれています。

#### 市外への通学状況（主な通学先）



#### ④ 市外からの通学状況

館山市における通学者は 2,239 人で、そのうち市内に常住しているのは 1,216 人です。

市外からの通学者は、近隣市町（南房総市・鴨川市・鋸南町）からの通学が 7 割以上を占め、県内では、富津市・勝浦市・君津市・木更津市・千葉市から通学しています。

また、東京都からも 7 人が通学しています。

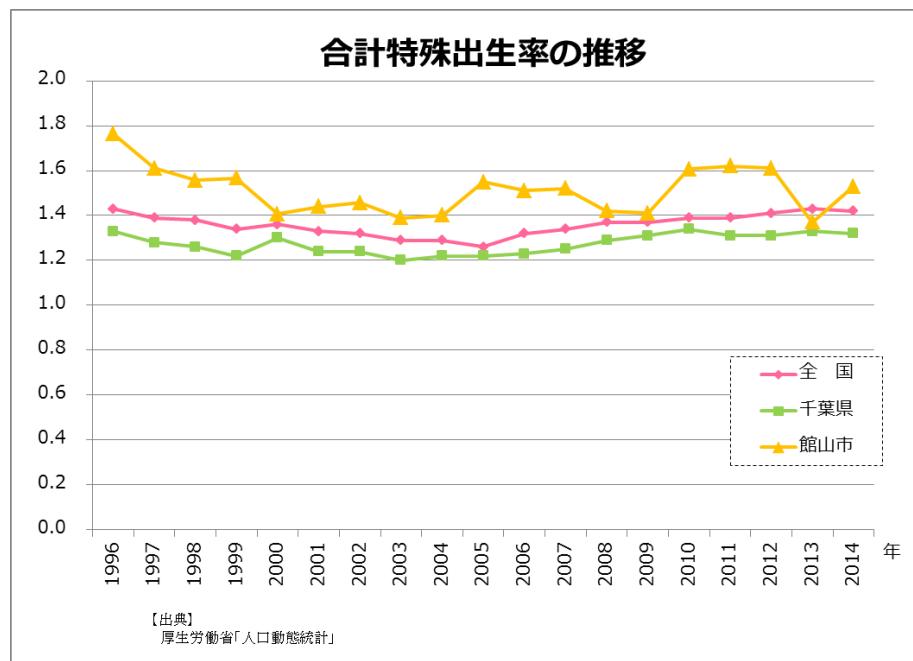
#### 市外からの通学状況（主な居住地）



### 3. 出生に関する分析

#### (1) 合計特殊出生率※の推移

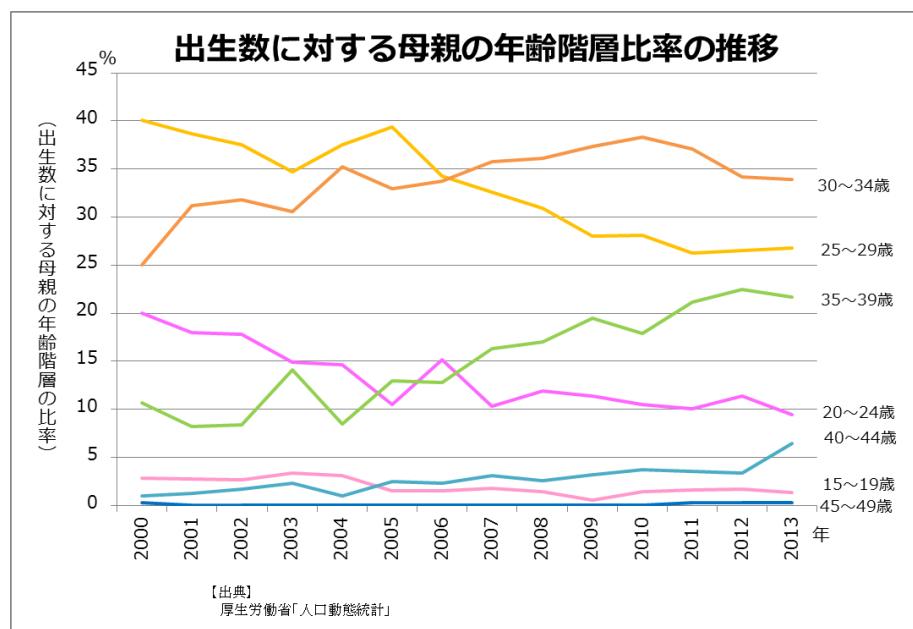
館山市の合計特殊出生率は、2013年に1.37と低下しましたが、それ以外は国・県平均を上回る高い率で推移しており、直近の2014年は1.53と県内で最も高い率となっています。



#### (2) 出生数に対する母親の年齢階層比率の推移

館山市の出生数に対する母親の年齢階層比率の推移をみると、最も比率の高い年齢階層は、2006年までは25～29歳でしたが、その後は30～34歳となっています。

また、35～39歳の比率が年々増えてきており、出産年齢の高齢化が進んでいることがわかります。

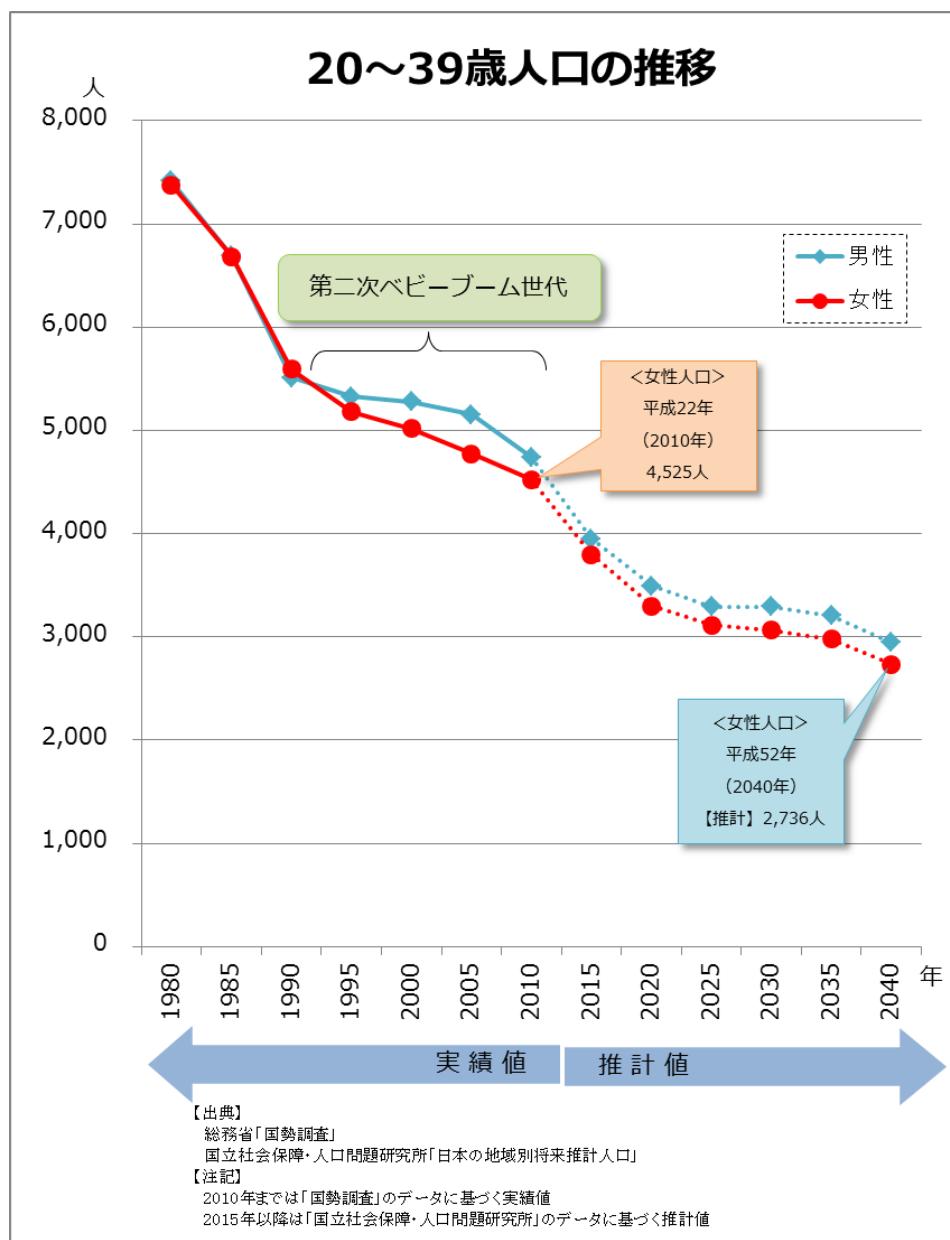


### (3) 結婚・出産・子育て世代の人口推移

結婚・出産・子育て世代の中心世代と考えられる「20~39歳」の人口推移をみると、男女ともに、1990~2010年頃にかけては、比較的ゆるやかな減少でしたが、2015~2025年にかけて、急激な右肩下がりで減少することが推計されています。

1990~2010年までは、第二次ベビーブーム世代が当該年齢に属していたため、減少幅はそれほど大きくありませんでしたが、今後同世代が当該年齢から外れていくため、急激に減少していくものと考えられます。

2025年以降は、ある程度減少が落ち着くものと考えられますが、社人研の推計によると、2010年において4,525人であった女性人口が、2040年には2,736人まで減少するとされています。



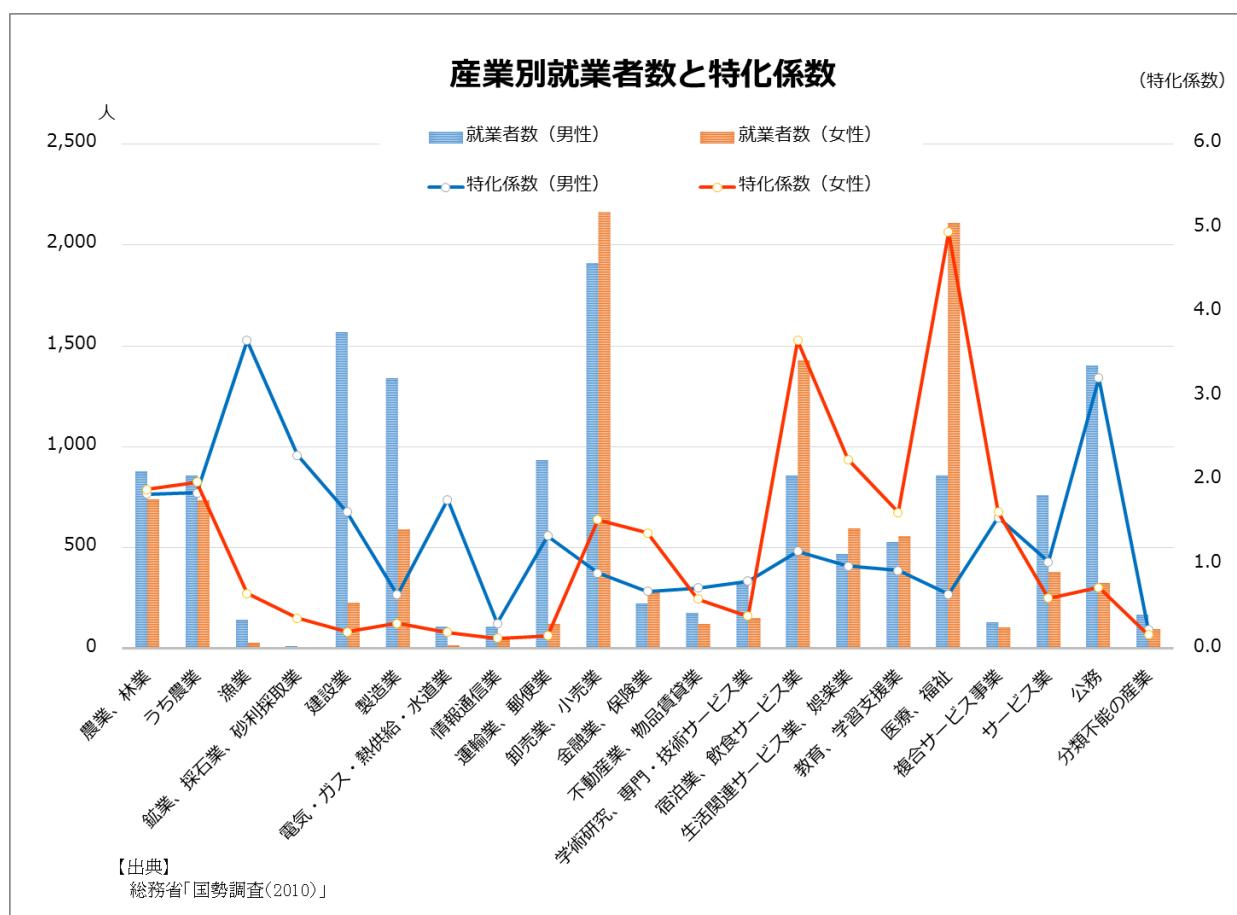
## 4. 雇用や就労等に関する分析

### (1) 産業別就業者数と特化係数

男女別の産業別就業者数をみると、男性は「建設業」、「製造業」、「卸売業、小売業」、「公務」の産業で多く、女性は「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」で多くなっています。

一方、特化係数<sup>注)</sup>では、男性は「漁業」と「公務」、女性は「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」で高くなっています。

なお、男性の「公務」の多くは、海上自衛隊員と考えられます。



注) 特化係数：地域の産業における従業者の相対的な集積度（強み）を見る指標

$$\text{地域における産業Aの特化係数} = \frac{\text{地域における産業Aの従業者比率}}{\text{全国における産業Aの従業者比率}}$$

## (2) 求人状況

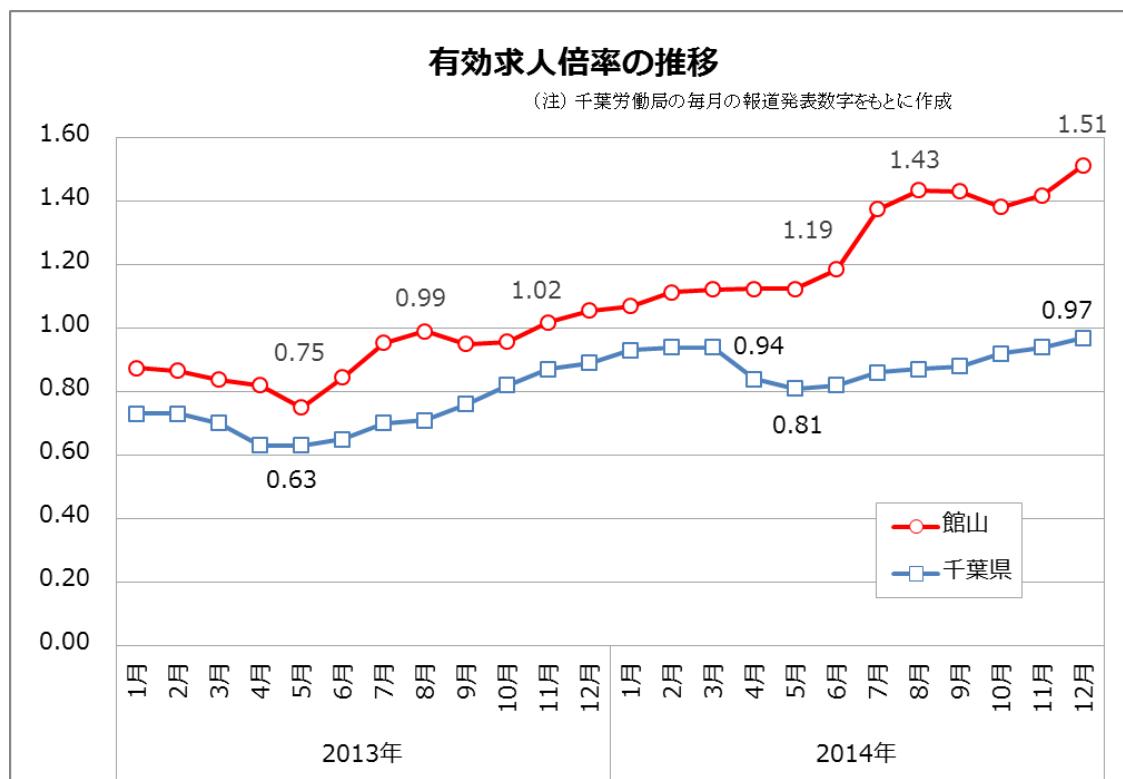
館山市を含むハローワーク館山管内の有効求人倍率は、県内他地域と比較すると高い水準で推移しており、直近の2014年では、ハローワーク千葉に次いで高い倍率となっています。

県内の過去5年間の地域別有効求人倍率（原数値）

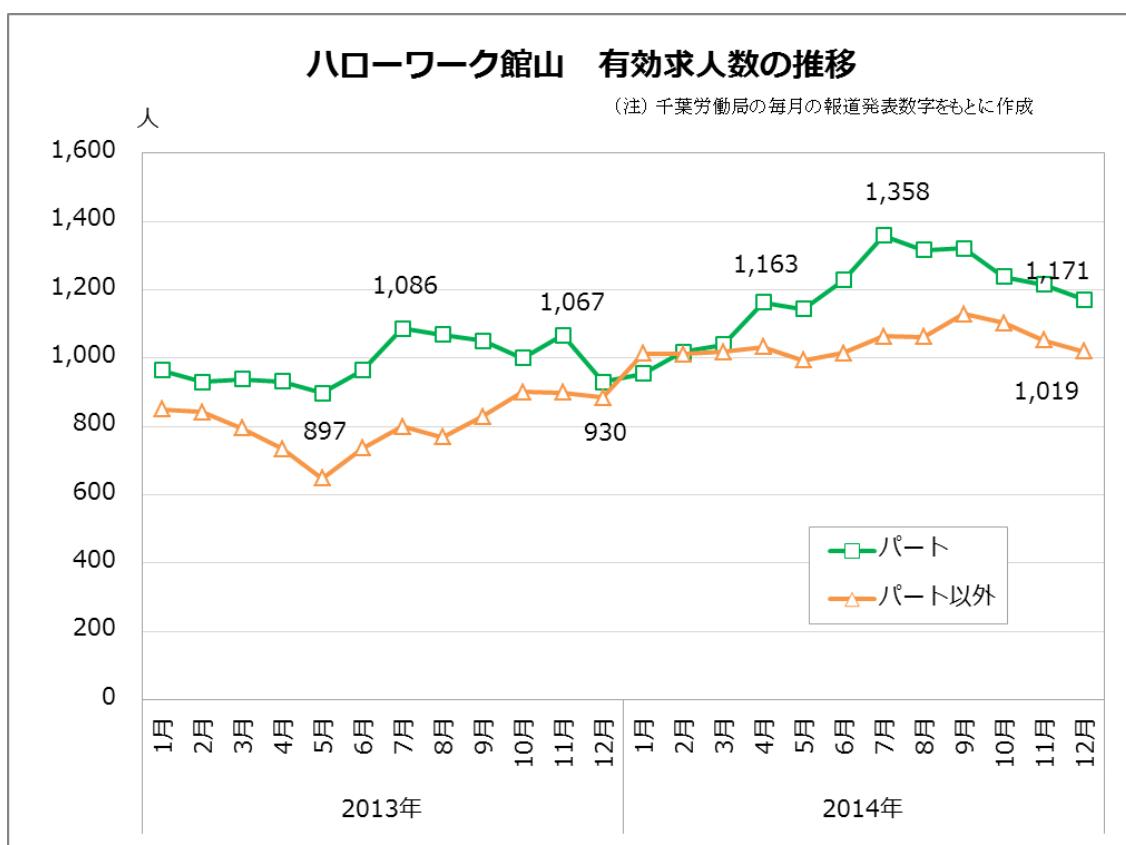
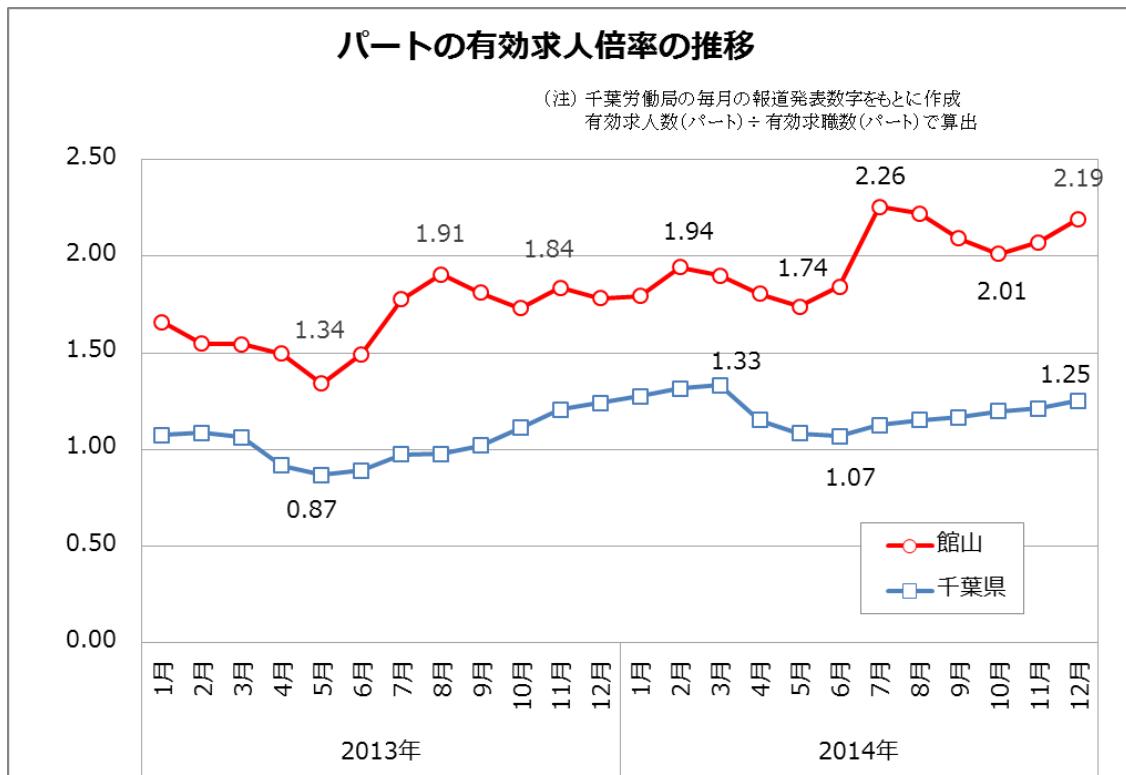
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	前年比
千葉	0.63	0.75	0.95	1.17	1.47	0.30
市川	0.43	0.46	0.56	0.60	0.77	0.16
鎌子	0.62	0.63	0.73	0.74	0.75	0.02
館山	0.87	0.73	0.93	0.91	1.26	0.36
木更津	0.56	0.71	0.91	0.94	0.98	0.04
佐原	0.39	0.44	0.58	0.55	0.64	0.09
茂原	0.41	0.51	0.48	0.51	0.55	0.04
いすみ	0.58	0.58	0.57	0.49	0.56	0.07
松戸	0.32	0.40	0.49	0.55	0.69	0.14
野田	0.46	0.53	0.73	0.69	0.64	▲ 0.05
船橋	0.34	0.46	0.59	0.64	0.86	0.21
成田	0.53	0.55	0.75	0.86	1.01	0.14
千葉南	0.38	0.46	0.59	0.60	0.71	0.11

(注) 1. 千葉労働局の毎月の報道発表数字をもとに作成。

2. いすみ、野田は出張所で外数。



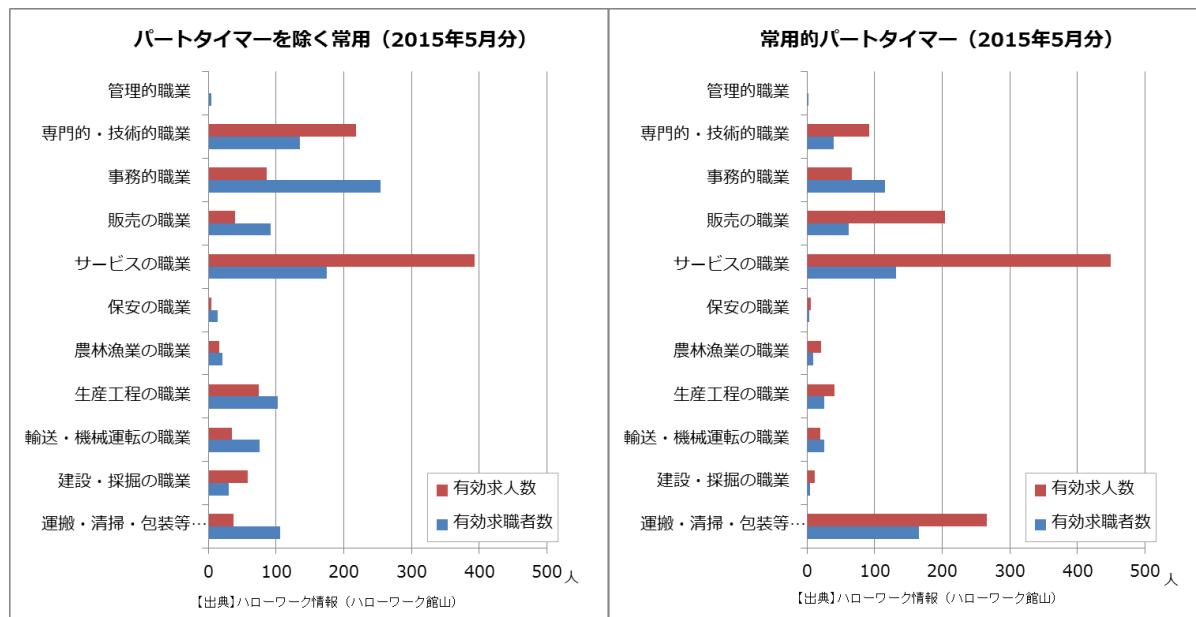
パートの有効求人倍率はさらに高く、有効求人数で比較しても、パートでの求人数が多いことがわかります。



### (3) 職業別・産業別求人状況

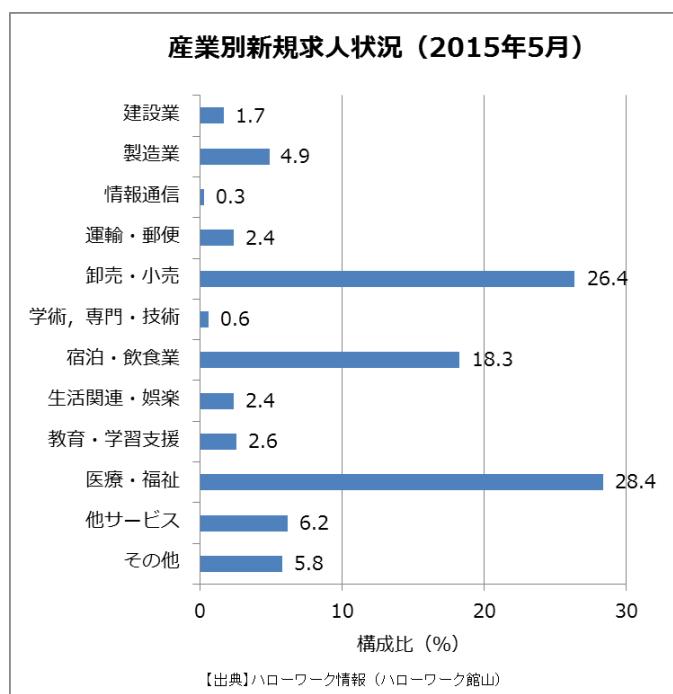
2015年5月分のハローワーク情報（ハローワーク館山）による職業別有効求人数・有効求職者数をみると、“パートタイマーを除く常用”と“常用的パートタイマー”的いすれにおいても、「サービスの職業」での有効求人数が際立って多いのにに対し、有効求職者数はそれに対応していないことがわかります。

一方で、「事務的職業」は有効求職者数に対し、有効求人数は少なくなっています。求職と求人の意向がマッチしていないと考えられます。



また、産業別新規求人状況をみると、「卸売・小売」「宿泊・飲食業」「医療・福祉」の産業で新規求人が多いことがわかります。

これは、“産業別就業者数と特化係数”のグラフ（P.21）における女性の就業者数・特化係数が高い産業と一致しています。



## 第3節 人口減少問題に取り組む基本的視点

人口減少の根本的な解決のためには、人口構造そのものを変えていかなければならず、その改善には相当な期間を要するため、中長期的な人口減少はどうしても避けては通れません。

しかし、急激な人口減少・少子高齢化の進展は、まちの活力を低下させるだけでなく、今ある生活の維持すらも危うくさせます。

そこで館山市では、まちの活力を維持し、今ある館山市の素晴らしい未来へと引き継いでいくために、過度な人口減少を抑制すること、そして、将来を見据えた持続可能なまちづくりを進めていくことを基本的な視点として、人口動態の現状と課題を踏まえ、人口減少問題に取り組んでいきます。

### 【基本的視点】

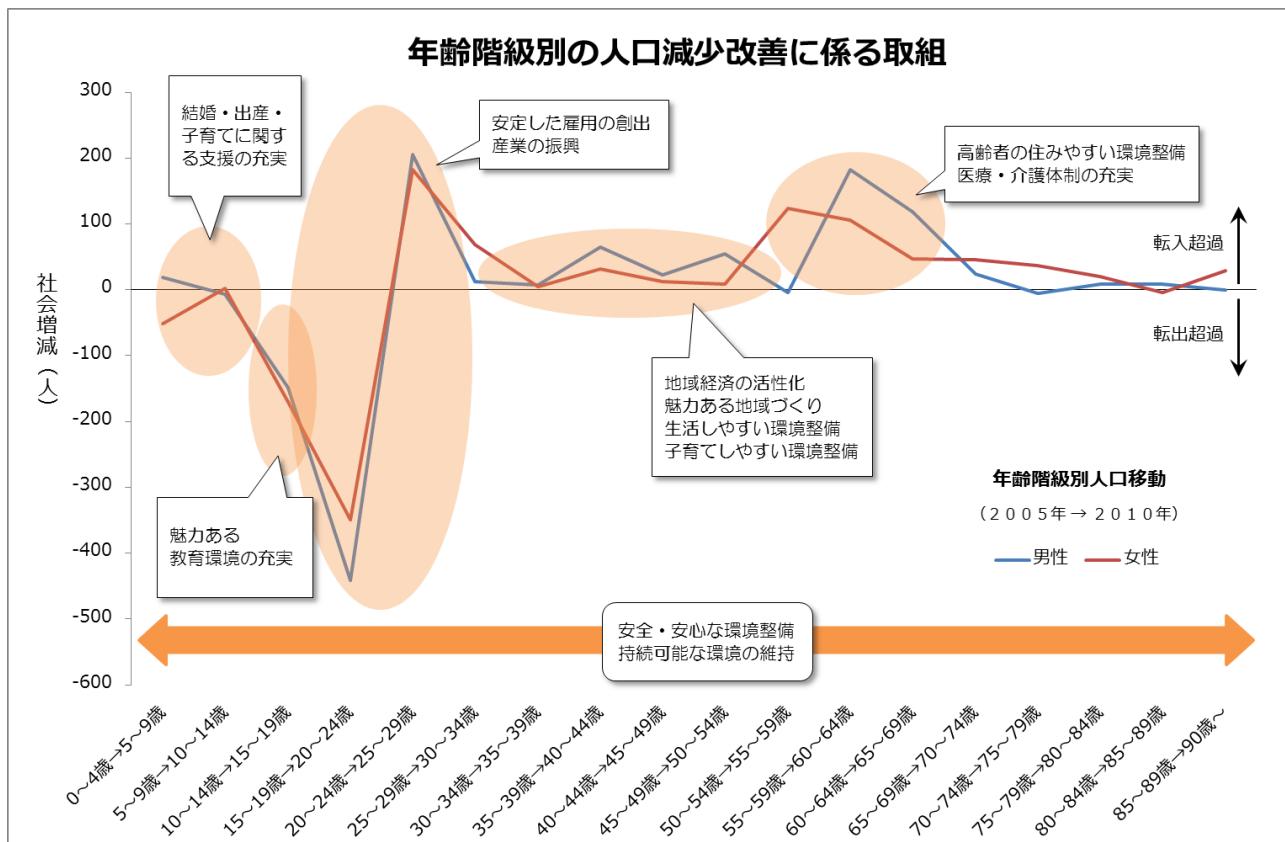
- ◆ 過度な人口減少の抑制とまちの活力の維持
- ◆ 人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくり

## 第4節 人口の将来展望

## 1. 目指すべき将来の方向

館山市の社会増減を年齢階級別に見ると、進学・就職等に伴う若者の転出の多さに比較して、その後の大学卒業等に伴うリターンを主とした転入の少なさが、人口減少の大きな要因となっていることがわかります。

若年層の流出は、結婚・出産にも関わり、自然動態にも大きな影響を及ぼします。



こうした流れを変えるためには、転出の主要因であり、転入の阻害要因ともなっている「働く場」の確保が何よりも重要です。

また、人口構造そのものを改善し、将来にわたって安定的な人口動態を維持するためには、安定した生活しやすい環境の下で、若者が地域に定着し、安心して結婚・出産・子育ての希望をかなえることができるよう支援し、出生率の向上・自然動態の改善を図ることが大切です。

一方、自然増への転換が長期的に難しい館山市では、外部からの転入促進も必要不可欠です。

そのためには、多くの市民が「住み続けたい」と思える魅力的なまちづくりを進めることができ、結果として、「訪れてみたいまち」・「住んでみたいまち」・「帰ってきていたいまち」として、館山市への人の流れを生み出し、人口の社会増と合わせて、まちの活性化にもつながるものと考えます。

このように、館山市では、それぞれの世代や対象に合わせた取組により、転出抑制・転入促進、出生率の向上を図り、人口動態の改善と地域の活性化を目指します。

## 【目指すべき将来の方向】

### ◆ 館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出

都心へのアクセス性に優れた地理的特性や魅力あふれる海に囲まれた自然環境、食の豊かさ、都心に近い観光地など、館山市の特性を活かした多様な「しごと」を創出し、「働く場」の拡大と地域の活性化を図ります。

### ◆ 館山市への「ひと」の流れをつくる

館山市の魅力を積極的に発信し、交流人口の増加を図るとともに、UJIターン※者や、孫ターン※者、二地域居住※者の増加など、館山市への「ひと」の流れを生み出す取組を強化します。

特に、人口減少に歯止めをかけ、地域活性化にもつながる若い世代の移住・定住の促進に努めます。

### ◆ 結婚・出産・子育てのしやすい「まち」づくり

豊かな自然環境に恵まれ、子育てに適した環境を有する館山市は、千葉県内で高い水準の合計特殊出生率※を誇ります。

若い世代が安心して、結婚・出産・子育てしやすい環境づくりをさらに積極的に進め、子育て世代に選ばれる「まち」を目指します。

### ◆ 安全・安心で、持続可能な「まち」づくり

「まち」の活力を維持し、館山市が、将来にわたって安定的に持続していくために、今ある「まち」の魅力に磨きをかけるとともに、子どもから高齢者までが「住み続けたい」と思える、安全・安心で生活しやすい「まち」づくりを進めます。

## 2. 人口の将来展望

国の長期ビジョンを勘案しつつ、目指すべき将来の方向性を踏まえ、社人研推計に準拠した中で、次の目標値を設定し、将来人口を展望します。

### 【合計特殊出生率※】

2025 年までに 1.80、2030 年までに人口置換水準※となる 2.10 まで上昇させることを目指します。

### 【純移動率※】

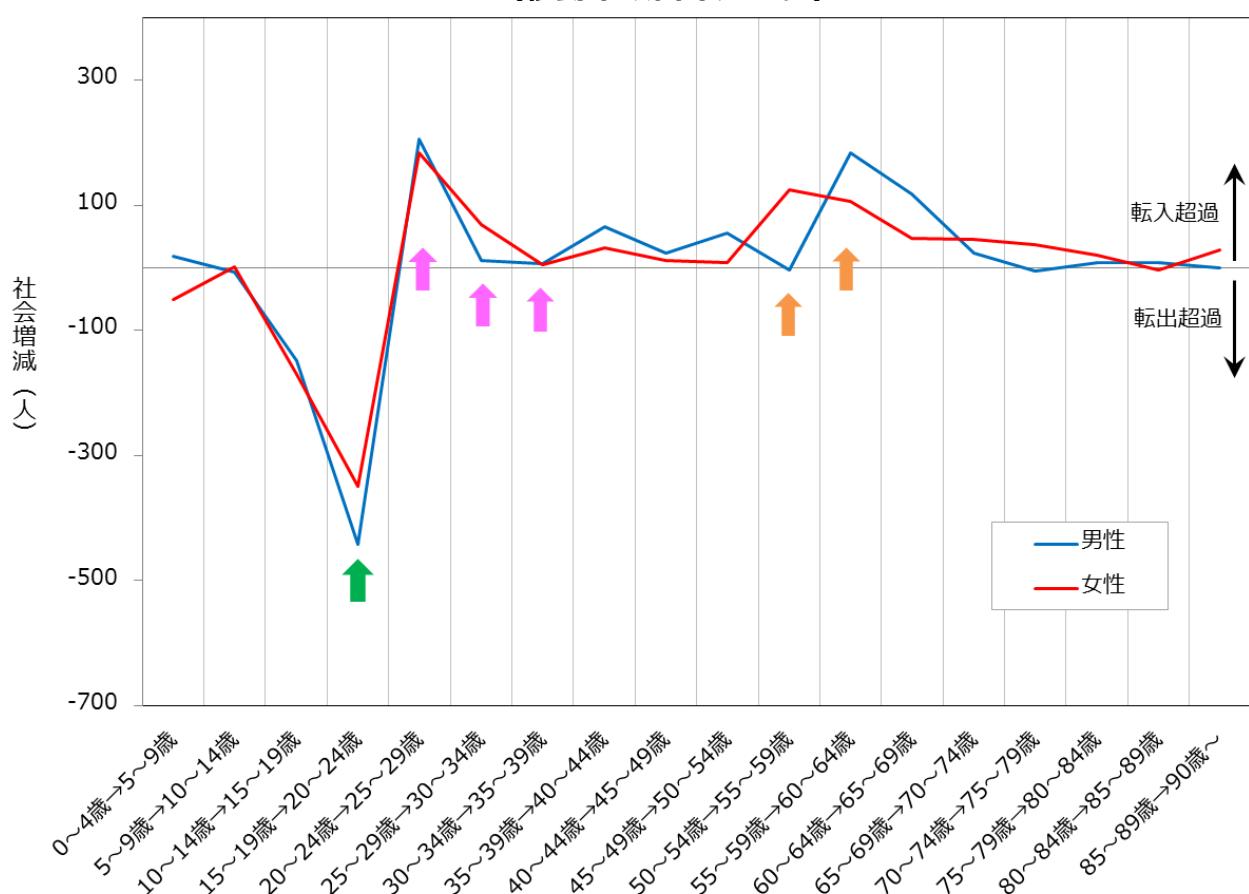
移動率の高い年齢階級の移動率を 15% 改善させ、その効果が 2020 年から現れる想定します。

転出超過の年齢階級は、社人研推計による移動率を 85% に抑制

転入超過の年齢階級は、社人研推計による移動率を 115% に促進

- 15～19 歳→20～24 歳：転出抑制 —— ↑
- 20～24 歳→25～29 歳：転入促進 }
- 25～29 歳→30～34 歳：転入促進 }
- 30～34 歳→35～39 歳：転出抑制 }
- 55～59 歳→60～64 歳：転入促進 }
- 60～64 歳→65～69 歳：転入促進 }

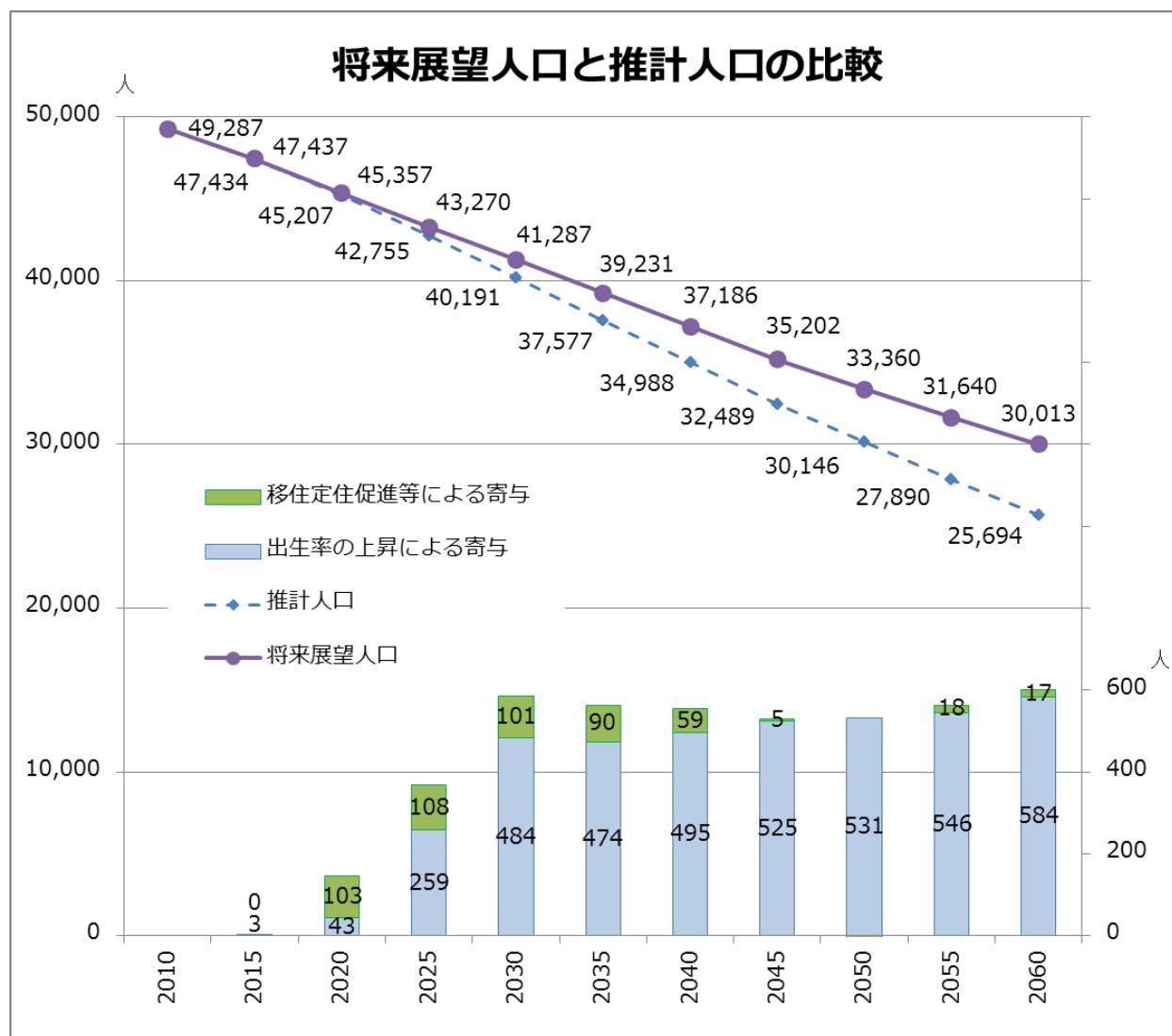
(移動率改善イメージ)



## ＜目標＞ 2060 年に 3 万人を維持する。

社人研推計準拠による人口推計では、2060 年の館山市的人口は 25,694 人まで減少するとされます。

しかし、目指すべき将来の方向性に向かった取組を進めることで、合計特殊出生率※と移動率が目標値のとおり改善されれば、2060 年には 30,013 人となり、社人研推計準拠によると推計人口と比較して、約 4,000 人の人口減少抑制効果が見込まれます。



# 第2章 館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 第1節 はじめに

### 1. 総合戦略について

「館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「総合戦略」という。)は、『まち・ひと・しごと創生法』に基づき、「館山市人口ビジョン」を踏まえ、館山市における人口減少問題の克服、地方創生施策を進める上での基本目標や目指す方向性(政策分野)、具体的な施策を定めたものです。

### 2. 基本方針

#### (1) 基本的な考え方

##### ① 人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくり

まちの活力を維持し、地方創生を成し遂げるため、東京都心から約1時間半という地理的優位性と恵まれた自然環境を最大限に活かし、過度な人口減少を抑えるとともに、人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくりに努めます。

##### ② まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

若者の移住・定住の促進、安心して生活できる環境の整備、それに基づく結婚・出産・子育ての希望の実現のため、安定した「しごと」の創出が急務です。

「しごと」の創出により、館山市への「ひと」の流れを生み出し、幅広い世代が“住みたい”“住み続けたい”と思える、安全・安心で、持続可能な「まち」づくりを進め、さらなる「まち」の活性化・魅力向上につながる好循環の確立を目指します。

#### (2) 他の戦略・計画との関係

##### ① 国及び県の総合戦略との関係

国及び千葉県の総合戦略の基本的な考え方や施策の方向性を勘案しつつ、館山市の特性を活かした施策を展開していきます。

##### ② 『第4次館山市総合計画』との関係

平成28年度から平成32年度を計画期間とする『第4次館山市総合計画』と合わせ、総合戦略では、「人口減少問題の克服」、「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けた施策をより重点的に進めます。

### (3) 総合戦略の取組体制

#### ① 「館山市まち・ひと・しごと創生本部」(内部組織) の設置

副市長を本部長、教育長を副本部長、全部長を本部員とする「館山市まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、部局間の緊密な連携のもと、取組の推進を図ります。

#### ② 「総合戦略推進組織」(外部組織) による効果検証と PDCA<sup>注)</sup> サイクルの確立

各界各層の市民代表からなる「館山市総合計画審議会」を「総合戦略推進組織」と位置付け、『第4次館山市総合計画』と合わせた進捗状況の確認・効果検証を行い、「PDCAサイクル」による取組の改善と効果的な実施に努めます。

##### 注) PDCAサイクル

事業活動における管理業務を円滑に進めるマネジメント手法の一つ。

Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの段階を繰り返すことにより、業務の継続的な改善を推進する。

#### ③ 広域連携による取組の推進

広域的な対策が必要な課題への対応や、より効果的な施策の推進のため、安房地域の3市1町を始めとした地域間の連携を図り、実効性の高い取組を推進します。

#### ④ 支援制度の積極的活用

国の地方創生交付金などの財政支援、「地方創生コンシェルジュ制度<sup>注)</sup>」などの人的支援を始め、国や県等の支援制度を積極的に活用します。

##### 注) 地方創生コンシェルジュ制度

地方公共団体が地方創生の取組を進めるにあたり、国が各府省に担当窓口となる職員を選任し、積極的に支援するために設置した相談窓口。

## 3. 総合戦略の構成

### (1) 基本目標

館山市の特性を踏まえ、次のとおり基本目標を定めます。

- ◆ “海”の魅力に磨きをかける～海の魅力アップ～
- ◆ “食”の豊かさで人をひきつける～食の豊かさアップ～
- ◆ “若者”の夢と希望をかなえる～若者の元気アップ～
- ◆ 未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ～ふるさとへの誇りアップ～

## (2) 目指す方向性（政策分野）と講すべき施策

国の総合戦略が定める政策分野を勘案し、基本目標に対する目指す方向性（政策分野）と、そのために講すべき施策を体系づけて定めます。（1ページ概要参照）

### 目指す方向性（政策分野）

「しごと」の創出 : 館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出

「ひと」の流れ : 館山市への「ひと」の流れをつくる

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」 : 結婚・出産・子育てのしやすい「まち」づくり

持続可能な「まち」 : 安全・安心で、持続可能な「まち」づくり

## (3) 具体的な施策内容（主な事業等）

講すべき施策について、計画期間（5年間）のうちに実施する具体的な施策内容（主な事業等）を定めます。

## (4) 数値目標・重要業績評価指標（KPI<sup>注)</sup> の設定

基本目標ごとに、目指す方向性（政策分野）についての「数値目標」を設定します。

また、基本目標に対する各施策の効果を客観的に検証するため、講すべき施策ごとに「重要業績評価指標（KPI）」を設定します。

なお、いずれの場合も、特に記載がない場合、基準値は平成26年度の実績、目標値は平成31年度の指標を示しています。（「5カ年累計」と記載されているものは、計画期間である平成27年度から平成31年度までの累計値を示します。）

注) 重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。

事業ごとの目標の達成度合いを確認するための指標。

# 4. 総合戦略の計画期間

平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

## 第2節 施策の展開

### 基本目標 ①

#### “海” の魅力に磨きをかける ~海の魅力アップ~

館山市は、東京都心から約1時間半というアクセス性を有し、豊かな自然に恵まれ、とりわけ風光明媚な海と海岸は、古来より現在に至るまで、多くの人々を魅了し、ひきつけるとともに、市民の生活にさまざまな恵みをもたらしてきました。

内湾と外洋、暖流と寒流といった変化に富んだ館山の海は、水上バイクやスキューバダイビングを始め、近年盛んになってきているシーカヤック※やスタンドアップパドルボード※などのマリンスポーツ、夏の海水浴の適地として知られています。

また、トライアスロン競技会場地としても定着してきており、平成24年には、ロンドンオリンピックの代表選考会も兼ねたアジア選手権大会の開催地にもなりました。

館山湾の南側に位置する沖ノ島は、海面下にあるおよそ8000年前の縄文時代の遺跡や世界的にも注目されている北限域のサンゴをはぐくむ貴重な自然を有しており、それらの歴史や自然に親しむこともでき、ビーチコーミング※などの新たな魅力も生み出しています。

また、南欧風の建物が建ち並ぶ北条海岸から波静かな鏡ヶ浦越しに望む富士山は、全国に誇れる絶景で、特に、夕景の富士はロマンティックな雰囲気を醸し出します。

こうした“海”的魅力は、市民の宝であり大切な財産です。

“海”的魅力にさらに磨きをかけ、「館山ならでは」、「館山でしかできない」、「館山らしさ」を追求し、近隣市町と広域的な連携を図りながら広く発信し、多くの人々や企業を呼び込み、既存の観光産業や飲食・サービス業等のビジネスチャンスを創出・拡大するとともに、起業支援にも力を入れ、新たな仕事の創出、地域経済の活性化を図っていきます。

#### ● 数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	企業誘致件数 <sup>注)</sup>	0件	(5カ年累計) 10件
	起業・創業者数 <sup>注)</sup>	6人	(5カ年累計) 75人
「ひと」の流れ	観光入込客数	163万人	200万人
	宿泊客数	38万人	50万人
	移住世帯数・移住者数	23世帯・58人	(5カ年累計) 100世帯・300人

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ マリンレジャー関連産業等の誘致

「しごと」の創出

館山の海は、海水浴以外にも多様なマリンレジャーが体験できる環境があります。

このような恵まれた環境を活かし、マリンレジャー関連産業（マリンスポーツ関連を始め、海の魅力を活かした飲食業・宿泊業・旅行業等、観光産業を含む）等に対する情報発信やトップセールス※を行い、企業誘致を積極的に推進していきます。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 企業誘致推進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
企業訪問（トップセールス）件数 <sup>注)</sup>	4件	（5カ年累計） 延べ 100 件

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ 海の魅力を活かしたビジネスの起業・創業支援

「しごと」の創出

海に関連したビジネスの起業・創業に対し、館山市起業支援補助金や融資制度による支援を行い、館山の海の魅力向上と地域経済の活性化を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 起業・創業支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
起業・創業支援者数 <sup>注)</sup>	8人	（5カ年累計） 延べ 150 人

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ 観光関連事業従事者の確保支援

「しごと」の創出

館山市の優れた地域資源を活かし、来訪者のニーズに対応した「おもてなし」の心あふれる、魅力ある観光地「観光立市たてやま」の確立のため、観光関連事業従事者の確保を支援します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 観光関連事業従事者の確保支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
求職セミナー開催数 <sup>注)</sup>	2回	（5カ年累計） 10回

注) 観光関連事業従事者以外を対象とするセミナーを含む。

## ◆ 水産業の振興

「しごと」の創出

市内5漁業協同組合の合併を促進し、漁協の経営基盤の強化を図るとともに、新規漁業就業者の増加に向けた取組や、漁港の多目的利活用の促進等により、漁港を中心としたにぎわいの創出、地域の活性化を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 漁協合併の推進
- 漁業経営支援
- 漁港利活用の促進
- 船形漁港周辺の活性化

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
漁業者インターンシップ事業*	3回	6回

## ◆ 海の魅力を活かしたシティセールス\*

「ひと」の流れ

多様性に満ちた館山の海の魅力を活かし、報道機関への積極的な情報提供やフィルムコミュニケーション\*の強化を図るとともに、ホームページやSNS\*、動画配信など、多様な情報媒体による魅力発信に努めます。

また、県や近隣市町と連携した広域的な情報発信により、安房地域が一体となった効果的なPR活動を行います。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- パブリシティ\*と多様な情報媒体による積極的な情報発信
- 広域連携による一体的な情報発信

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
館山市公式ホームページ閲覧件数	258万回	300万回
フェイスブック*の“いいね”件数	746件	2,000件
パブリシティによる報道機関へのリリース* 件数 <sup>注)</sup>	685件	1,000件
情報発信による各種メディア（Web・雑誌 ・テレビ等）への露出件数 <sup>注)</sup>	300件	350件
観光プロモーション*先新規開拓件数 (参考) 平成26年度観光プロモーション実施件数 75件	—	(5カ年累計) 50件

注) 分野を特定しない。

## ◆ 海と暮らすライフスタイルの提供による移住・定住促進

### 「ひと」の流れ

東京都心から約1時間半というアクセスの良さ、年間を通じた温暖な気候、海の魅力と豊かな自然環境を有する館山市は、移住・定住だけでなく、二地域居住※にも適した場所です。

海のもたらす恵みを享受し、ゆとりと潤いのある「館山ならでは」の、海と暮らすライフスタイルを提案し、館山市への人の流れを生み出すため、移住相談体制の充実、移住希望者への支援強化、移住しやすい環境の整備、空き家バンク制度の利用促進、移住・定住に係る情報提供・PRの強化を図ります。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 移住に係る相談体制の充実
- 移住希望者への支援強化
- 移住しやすい環境の整備
- 空き家バンク制度の利用促進
- 海の魅力を活かした定住促進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
移住相談件数	141 件	200 件

## ◆ 海の魅力をテーマとした外国人観光客の誘致

### 「ひと」の流れ

成田・羽田両国際空港から2時間以内という地理的優位性と、鏡ヶ浦越しに望む夕景の富士や「鮎の町・館山」など、外国人観光客の興味・関心をひきつけることができる館山市の潜在力を十分に発揮し、インバウンド※を強化していくため、観光スポットや飲食店・宿泊施設等を掲載した英文パンフレットの作成や体験観光のブラッシュアップ※による観光メニューの充実、外国人向けモニターツアー※の実施、公共施設へのWi-Fi※整備など、外国人観光客の受入態勢の充実を図ります。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 外国人観光客向け情報発信の強化
- 外国人観光客向け観光メニューの充実
- 外国人観光客の受入態勢の整備

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
外国人宿泊客数	759 人	2,000 人
公共施設（市有公衆トイレ等）へのWi-Fi環境整備箇所数	—	(5カ年累計) 5カ所

## ◆ 安心して楽しめる海の魅力の向上

「ひと」の流れ

魅力あふれる館山の海を、安心して存分に楽しめるように、海岸利用者のマナー向上対策や津波対策を強化し、安全・安心な環境を確保します。

また、陸と海を結ぶ交流拠点「“渚の駅”たてやま」（国土交通省「みなんとオアシス※」認定）の機能強化、旅客船の定期航路化や寄港船舶の増加に向けたポートセールス※、沖ノ島の貴重な自然資源保護のための取組等により、海の魅力のさらなる向上を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| ■ 津波対策の強化              | ■ 海岸利用者のマナー向上対策 |
| ■ 交流拠点「“渚の駅”たてやま」の機能強化 | ■ 海路の充実         |
| ■ 館山港の整備・利用の促進         | ■ 沖ノ島の環境整備      |

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
「渚の駅」たてやま 年間来館者数	14.8万人	40万人

## ◆ 個性豊かな海の魅力を活かした観光振興

「ひと」の流れ

館山市の重要な観光資源である美しい砂浜・海岸を維持し、海水浴を始めとするマリンレジャー やブルーツーリズム※の推進を図るとともに、「ウミホタル観察会」や「釣り大会」などの海を活用した事業の開催、「館山湾花火大会」や「南総里見まつり」、「たてやま海まちフェスタ」など、館山市ならではの特色あるイベントの開催により、観光振興を図ります。

また、北条海岸芝生広場などの海岸エリアにおける美と健康・食をテーマとしたにぎわいの創出、海岸線を巡るツーリング※コースの環境整備、レンタサイクル乗り捨てシステムの構築等により、地域資源に磨きをかけ、館山市への交流人口の増加を促します。

特に、レンタサイクル乗り捨てシステムについては、サイクルツーリズム※の促進のため、安房地域が一体となった広域的な連携のもと、推進していきます。

さらに、貴重な観光資源の一つである自然景観の保全と、南欧風の景観形成を推進するため、海辺エリアを重点地区とした景観計画を策定します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| ■ マリンレジャーを活用した観光振興 | ■ ブルーツーリズムの推進 |
| ■ 観光関連事業者への支援      | ■ 海岸利活用事業     |
| ■ サイクルツーリズムの推進     | ■ 景観計画策定事業    |

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
観光イベント実施件数 (参加者数1万人以上のもの)	2件	3件
観光イベント来場者数	24万人	26万人
レンタサイクル貸出台数	3,600台	4,000台

## ◆ オリンピック・パラリンピックの

「ひと」の流れ

### レガシー（遺産）\*を見据えたまちづくり

2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、館山市の魅力の一つである海を始めとする豊かな自然環境や既存施設などを最大限有効活用した、事前キャンプ誘致や各種スポーツイベントの支援、スポーツ観光等を推進し、交流人口の増加による経済振興を図ります。

また、市民のスポーツへの関心を高め、健康・福祉の増進など、あらゆる分野と連携したスポーツによるまちづくりを進め、2020 年以降も未来の市民が誇りに思うレガシー（遺産）の創造と継続的なまちの活性化を図ります。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）を見据えたまちづくり
- 館山若潮マラソン大会の魅力向上
- スポーツイベントの開催

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
スポーツ観光客数	32.8 万人	36 万人

## 基本目標 ②

### “食” の豊かさで人をひきつける～食の豊かさアップ～

館山市は、温暖な気候と緑豊かな大地、沖合いには黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場を有することで、多彩な“食”的恵みを享受してきました。

この地域の豊かで多彩な食材を、観光客への「おもてなし」としてさらに活かし、観光の目的の一つである“食”的魅力を高めることは、「観光立市たてやま」の確立において、必要不可欠と言えます。

豊かな農水産資源を観光・産業面で活かすことは、地域外からの収益の増加だけでなく、地域内でのモノ・カネの循環を活性化させ、農水産業の6次産業化※、農水商工連携、地産地消などを推進し、農水産業を力強い産業へと押し上げるとともに、地域経済そのものを発展させ、新たな仕事の創出や交流人口・定住人口の増加にもつながっていきます。

このような好循環を生み出すため、館山の“食”的恵みを地域内で流通させる体制を構築するとともに、生産者の経営基盤を強化し、生産力・供給力の向上を図ります。

また、市民や市内事業者等へ、地域の食材・食文化に対する理解を促進し、その素晴らしさを次世代や来訪者に伝えていくことで、市民が「館山の食べ物はおいしい」と全国に誇れるまち、また、来訪者から「館山のおいしい食べ物をまた食べに行きたい」と思われるまちを目指します。

#### ● 数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	【再掲】起業・創業者数 <sup>注)</sup>	6人	(5ヵ年累計) 75人
「ひと」の流れ	【再掲】観光入込客数	163万人	200万人
持続可能な「まち」	地元野菜等需要量（家庭用）	1.18億円	1.71億円
	地元野菜等需要量（業務用）	1.77億円	2.56億円

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ 「食のまちづくり」による農水産業の魅力向上

「しごと」の創出

地域で生産される多彩で豊かな農産物や新鮮な海産物などを活かし、農水産資源のブランド化・高品質化を推進する取組や農水産物の販路拡大、加工品の開発を支援とともに、「食のまちづくり」拠点施設の整備を推進し、農水産物の収益拡大、農漁業者の経営安定化を目指します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 食のまちづくり拠点施設の整備
- 農水産物のブランド化推進
- 農水産物等の加工品開発支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
特産加工品の開発数	—	(5ヵ年累計) 5品目

## ◆ 食に関するビジネスの起業・創業支援

「しごと」の創出

市民にも都市部の住民にも高く評価されている館山の食の豊かさは、館山の強みです。食材の宝庫としての魅力を活かし、食に関するビジネスの起業・創業を支援し、地域経済の活性化と新たな雇用の場の創出を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 起業・創業支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
【再掲】 起業・創業支援者数 <sup>注)</sup>	8人	(5ヵ年累計) 延べ 150人

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ 農業の成長産業化支援

「しごと」の創出

農業生産者が主体となり、加工・販売等の事業者と連携しながら、農産物の付加価値向上を目的とした6次産業化※の推進や、農業の新たな担い手の育成確保、経営基盤強化としての企業参入の推進、農業法人化、地域ぐるみの組織的な農業経営体の育成・確保、グリーンツーリズム※の推進等により、農業の成長産業化を支援します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 6次産業化の推進
- 農業の担い手育成確保と組織的な営農スタイルへの後押し
- グリーンツーリズムの推進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
食のまちづくりイベント開催回数	6回	12回
認定新規就農者数	2人	12人
認定農業者数	123人	135人
市内農業法人数	14法人	20法人

## ◆ 豊かな食の恵みを活かしたシティセールス\*

「ひと」の流れ

ご当地グルメや房州いちご、神戸レタス、房州枇杷、房州鮭など、ブランド力のある豊かな食の恵みを活かし、報道機関への積極的な情報提供やフィルムコミッション※の強化、各種キャンペーンの実施、マスコットキャラクター「ダッペエ」の活用によるプロモーション※など、積極的な情報発信に努めるとともに、広域連携による一体的な情報発信を行います。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- ブランド力のある観光資源の積極的なPR
- パブリシティ※と多様な情報媒体による積極的な情報発信
- 広域連携による一体的な情報発信

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
【再掲】 館山市公式ホームページ閲覧件数	258万回	300万回
【再掲】 フェイスブック※の“いいね”件数	746件	2,000件
【再掲】 パブリシティによる報道機関へのリリース※ 件数 <sup>(注)</sup>	685件	1,000件
【再掲】 情報発信による各種メディア（Web・雑誌 ・テレビ等）への露出件数 <sup>(注)</sup>	300件	350件
【再掲】 観光プロモーション先新規開拓件数 (参考) 平成26年度観光プロモーション実施件数 75件	—	(5カ年累計) 50件

注) 分野を特定しない。

## ◆ 農業生産基盤の維持・保全

持続可能な「まち」

農業生産者の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地が拡大しています。

また、イノシシなどの有害鳥獣による農作物の被害は年々増加傾向にあります。

「食のまちづくり」を進める上で、農業生産基盤を維持・保全し、生産力の強化を図ることは極めて重要です。

耕作放棄地の発生防止や解消に努め、意欲ある農業経営者への優良農地の集積・集約化を促進するとともに、有害鳥獣対策を強化していきます。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 有害鳥獣対策事業
- 農地の保全と有効活用

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
耕作放棄地	351ha	351ha
防護柵の設置補助	10,506m	(5ヵ年累計) 50,000m

## ◆ 館山の安全・安心で恵まれた食材による

持続可能な「まち」

### 食育と地産地消の促進

農水産業の果たしている多面的な役割や健康と生命を支える食の大切さ、地域の食文化への理解、安全・安心な食材による地域への誇りなどを深めるため、市民への食育の推進を図るとともに、年間を通じて、地域の農水産物を地域で活用できる環境を整備し、地産地消の推進、地域内流通の活性化、農水産物の消費拡大を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 地域内流通の活性化による地産地消の推進
- 地域における食育の推進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
地産地消推進店※数	137 店	170 店
農産物の規格外品の活用量 <sup>注)</sup>	—	900 kg

注) 市の取組によるものを対象とする。

### 基本目標 ③

## “若者”の夢と希望をかなえる～若者の元気アップ～

館山市の将来を担う“若者”は、館山を元氣にする原動力です。

『第4次館山市総合計画』を策定するにあたり、平成26年11月に、安房地域に所在する8つの高等学校等の2年生を対象に実施した高校生アンケートでは、「今住んでいる地域が好き」な生徒は約6割(59.3%)を占め、「地元で就職したい」と思う生徒は4割強(43.6%)であることがわかりました。

しかし、これら生徒の多くが、高校を卒業すると大学等への進学や就職により市外に転出してしまいます。就職については、現在、有効求人倍率は県内でも高く、求人の多い地域と言えますが、その多くが、看護職・介護職などの医療・福祉系サービス業や観光・飲食サービス業に偏っており、“若者”的多様な就業ニーズと合致していないため、市外へと職を求めて転出するものと考えられます。

一方で、館山市は近年、都市住民等の移住が増えてきており、特に、若い子育て世代の移住者が多いことが特徴です。

館山市は、地元で育った若者たちが、地域に強い愛着を持っているだけでなく、都市部の若者からも選ばれる、高い潜在力を有していると考えられます。

この潜在力を十分に活かし、館山で生まれ育った若者が、本人の希望どおり、館山に残ることができる、あるいは、戻ってくることができる、さらには、都市住民等から選ばれ、移住してきてもらうためには、魅力ある就業の場の確保が何よりも重要です。

そこで、多様な就業の場の創出、起業や創業にチャレンジする若者への積極的な支援、職業のマッチング※などにより、“若者”的夢と希望をかなえ、経済的・精神的に安定できる仕事の確保に努めます。

また、若者のアイデア・行動力を活かし、まちの活性化を図るとともに、結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、「切れ目のない」一貫した支援体制を構築し、豊かで充実した生活を送れるよう、市を挙げて若者の定住促進に取り組みます。

### ● 数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	【再掲】企業誘致件数 <sup>注)</sup>	0件	(5ヵ年累計) 10件
	【再掲】起業・創業者数 <sup>注)</sup>	6人	(5ヵ年累計) 75人
「ひと」の流れ	【再掲】移住世帯数・移住者数	23世帯・ 58人	(5ヵ年累計) 100世帯・ 300人
結婚・出産・子育ての しやすい「まち」	合計特殊出生率*	1.53	1.80
	出生数	311人	320人

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ 若者の希望に応える雇用環境の創出

「しごと」の創出

企業誘致を推進するためのトップセールス※の実施や市内企業に関する情報の収集・提供、市内進出を希望する企業へのフォローアップ※など、多様な職種選択等に対応できる雇用対策に取り組み、若者の希望に応えるため、安定した仕事の創出に努めます。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 企業誘致推進
- 新たな雇用の創出

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
【再掲】 企業訪問（トップセールス）件数 <sup>注)</sup>	4件	（5カ年累計） 延べ 100 件

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ チャレンジする若い起業者・創業者への支援強化

「しごと」の創出

館山市起業支援補助金や融資制度の活用に加え、起業・創業に関する情報やノウハウを豊富に有する商工会議所や金融機関等と連携し、地域における起業・創業希望者を支援します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 起業・創業支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
【再掲】 起業・創業支援者数 <sup>注)</sup>	8人	（5カ年累計） 延べ 150 人

注) 業種・分野を特定しない。

## ◆ 雇用の需要と供給のマッチング※強化

「しごと」の創出

館山市の有効求人倍率は県内でも上位を占めるものの、特定の職種、勤務形態に偏っていることから、求職者の希望する仕事とのミスマッチ※が生じています。

そのため、ハローワークや近隣市町と連携したセミナーや安房地域で就職を希望する移住希望者（学生を含む）と地元企業とをマッチングさせるイベントの開催、地域の雇用ニーズを捉えた人材育成を行うことにより、求人・求職のミスマッチ解消に努めます。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 就業支援の強化
- 地域の雇用ニーズを捉えた人材育成

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
【再掲】	2回	（5カ年累計）

求職セミナー開催数		10回
-----------	--	-----

## ◆ 商業・工業の活性化によるまちの元気創造

「しごと」の創出

まちなか再生事業の実施や商店街の環境整備の推進など、市・商工会議所・商店街・地域おこし協力隊※等と連携し、地域の商店及び商店街の魅力を高める取組を支援とともに、商工関係団体や中小企業事業者の組織強化、経営安定化に向けた支援により、地域経済の活性化・発展を目指します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 中小企業・商工団体支援
- 商業・工業の競争力強化支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
空き店舗数	82 店舗	80 店舗

## ◆ 若者のアイデア・行動力を活かした地域活性化の推進

「ひと」の流れ

地域おこし協力隊※の活用や館山市で生まれ育った若者の交流機会の創出、地域で活躍する若者のネットワーク化等により、若者のアイデア・行動力を活かした地域活性化を推進するとともに、若者の地元定着及びUJIターン※等の促進を図ります。

また、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に事業協力機関として参画し、千葉大学との連携による新たな雇用創出や若者の地元定着を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 地域おこし協力隊制度の活用による若者の移住促進
- 若者の交流機会の創出
- 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
地域おこし協力隊委嘱者累計数 <sup>注)</sup>	10人	12人

注) 事業開始年度からの委嘱者累計実績。

## ◆ 出会い・婚活支援

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

社人研の出生動向基本調査（2010年）（以下「出生動向基本調査」という。）によれば、我が国の独身男女の約9割は結婚の希望を持つとされますが、出会いの場の減少や晩婚化の進展などにより、希望を実現できていないのが現状です。

結婚に対する希望を実現させるため、既存の観光資源を連携させ、地域の新たな魅力づくりによる交流人口の増加等を目指す「恋人の聖地※」の活用や、出会い・婚活事業の支援などにより、独身男女の出会いの場を提供するとともに、地域の活性化や移住・定

住の促進、結婚奨励による少子化対策を図ります。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 出会い・婚活事業の支援
- 「恋人の聖地※」プロジェクト

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
出会い・婚活支援事業開催数	1回	(5カ年累計) 5回
「恋人の聖地」協力団体・事業者数	—	(5カ年累計) 20団体

#### ◆ 安心して妊娠・出産できる環境づくり

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

出生動向基本調査によれば、理想子ども数、予定子ども数ともに減少傾向が続いているものの、全国的にみれば、いずれも2人以上の水準を維持しています。

将来的に館山市の出生数を増やしていくためには、出生に関する希望を実現させることが重要であり、若い世代を対象とした妊娠・出産に関する正しい知識の普及・啓発や、妊娠・出産・子育てに係る相談体制の強化、産前・産後サポートの充実を図り、安心して妊娠・出産できる環境づくりを目指します。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 妊娠・出産・子育てに係る相談体制の強化・充実
- 妊娠・出産に関する正しい知識の普及・啓発
- 産前・産後サポートの充実

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
妊娠・出産を取り巻く社会的障壁を取り除くための意識啓発の場の設定	—	4回

#### ◆ “子育てが楽しくなる” 子育て支援の強化

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

保育園・幼稚園・こども園施設の整備充実を図るとともに、延長保育や土曜保育、預かり保育の充実、親子の交流拠点施設としての「元気な広場※」の機能強化、ファミリー・サポート・センター事業※の充実、子育て世帯の経済的負担の軽減、三世代同居・近居の推進、働きやすい環境の整備、学童クラブの安定的な運営・支援等により、子育てに関する精神的負担を軽減し、“子育てが楽しくなる” 子育て支援の強化を図ります。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 保育園・幼稚園・こども園施設の整備充実
- 保育サービスの充実
- 子育て相談体制の強化・充実

- 「元気な広場」の機能強化
  - 子育てネットワークの構築
  - ファミリー・サポート・センター事業※の充実
  - 子育て世帯の経済的負担の軽減
  - 三世代同居・近居の推進
  - 働きやすい環境の整備
  - 学童クラブの安定的運営
- ※ 55 ページ以降に用語説明があります。

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
「出張子育てひろば※」の実施箇所数	1 力所	3 力所
赤ちゃんの駅※整備数	35 力所	40 力所
ファミリー・サポート・センター会員数	360 人	500 人
公設学童クラブ数	—	8 力所

## ▼ 地域ではぐくむ教育環境の整備

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

放課後子供教室※の推進や図書館の児童サービスの充実等により、未来を担う心豊かで健やかな子どもを地域ではぐくむ環境づくりに努めるとともに、市内高校のブランド化に向けた支援の検討や館山市と縁がある大学等に対するサテライトキャンパス※の誘致に向けた取組など、地域の教育力の向上を目指します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 放課後子供教室の推進
- 図書館の児童サービスの充実
- 市内高校のブランド化に向けた支援の検討
- サテライトキャンパスの誘致

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
放課後子供教室と学童クラブの一体的な実施箇所数	—	8 力所

## 基本目標④

# 未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ ～ふるさとへの誇りアップ～

地域活性化の主役は、館山で暮らし、活動する市民です。

そして、その原動力は、「館山をもっと良くしたい」という熱い思いであり、“ふるさと”に対する誇りと愛着心です。

『第4次館山市総合計画』の策定にあたり、平成26年8月に実施した市民アンケートでは、「館山市に愛着がある」と答えた市民は7割を超えていました。

一方、まちづくりへの市民参加意識では、「自分たちのまちを住みよくするために、自分から進んで協力したい」と答えた方は16.2%にとどまりましたが、「自分からは進んでやらないが、申し込まれれば協力したい」と答えた方が50.2%と半数を占めていたことから、多様な市民参加の場と機会を創出することで、多くの市民の協力と参画を得られる可能性があることがわかりました。

「館山市人口ビジョン」で示すように、館山市の人口は今後も減少が見込まれ、高齢化も進行します。

そのような状況において、まちの活力を維持し、笑顔あふれる元気なまちをつくっていくためには、市民相互の支え合いや市民と行政との協働、地域課題の解決に向けた市民の取組など、市民の主体的な活動なくしては成り立ちません。

そこで、“ふるさと館山”に対する誇りと愛着心をはぐくみ、地域の主体として市民が積極的にまちづくり・地域づくりに参加できる環境と、地域が一体となって支え合う体制を整備していきます。

また、将来の人口規模を見据え、行政サービスのあり方を見直し、効率的な行政運営の実現に努めていくとともに、住み慣れた地域で元気に暮らし続けることができるよう、安全・安心なまちづくり、医療・福祉の充実と健康増進活動の推進、公共交通の維持や道路網の整備などに継続して取り組んでいきます。

### ● 数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	介護職員新規就業者数	15人	(5ヵ年累計) 120人
「ひと」の流れ	【再掲】移住世帯数・移住者数	23世帯・ 58人	(5ヵ年累計) 100世帯・ 300人
結婚・出産・子育ての しやすい「まち」	【再掲】合計特殊出生率*	1.53	1.80
	【再掲】出生数	311人	320人
持続可能な「まち」	常住人口	(H27年4月) 47,214人	(H32年4月) 45,357人

## ◆ 医療・介護・福祉人材の確保支援

「しごと」の創出

超高齢社会において、医療・介護・福祉分野の充実は、重要な課題です。

安房地域の医療福祉体制は全国的にも恵まれており、地域の就業の場としても重要な位置付けとなっていますが、看護師や介護士などの担い手不足が深刻化してきており、全国的な人材の奪い合いとなっています。

このため、看護師等修学資金の貸付や介護職員初任者研修費用の一部助成により、看護師や介護士等の確保、施設等における雇用確保を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 医療・介護・福祉人材の確保に向けた支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
介護職員初任者研修受講者数	15人	(5ヵ年累計) 120人

## ◆ シティプロモーション\*による館山の魅力向上

「ひと」の流れ

地域の誇りは、地域の魅力につながります。

地域に根ざした歴史文化遺産や郷土の誇り「祭礼文化」など、館山市ならではの魅力を、報道機関への積極的なアプローチやフィルムコミッショニング\*、ホームページやSNS\*など、多様な媒体を利用して市内外へ情報発信することで、交流人口の増加を図るとともに、市民の地域への誇りと愛着心のさらなる醸成に努めます。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 観光スポットとしての歴史文化遺産の活用
- 歴史文化の情報発信強化
- 祭礼文化のPR
- 市民との協働による館山の魅力発信
- パブリシティ\*と多様な情報媒体による積極的な情報発信
- 広域連携による一体的な情報発信
- ふるさと納税の推進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
【再掲】 館山市公式ホームページ閲覧件数	258万回	300万回
【再掲】 フェイスブック*の“いいね”件数	746件	2,000件
【再掲】 パブリシティによる報道機関へのリリース* 件数 <sup>注)</sup>	685件	1,000件

【再掲】 情報発信による各種メディア（Web・雑誌 ・テレビ等）への露出件数 <sup>注)</sup>	300件	350件
【再掲】 観光プロモーション※先新規開拓件数 (参考) 平成26年度観光プロモーション実施件数 75件	—	(5カ年累計) 50件

注) 分野を特定しない。

## ◆ 市民スポーツの振興

「ひと」の流れ

生涯スポーツの機会拡充や社会体育団体の育成・支援、社会体育施設の整備充実、学校体育施設の開放など、市民スポーツの振興を図り、市民の健康体力の保持増進と地域の活性化を促します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 生涯スポーツの機会拡充
- 社会体育団体の育成支援
- 社会体育施設の整備充実
- 学校体育施設開放

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
スポーツ関連イベントの参加者数	1.8万人	2万人

## ◆ 「生きる力」と「郷土愛」の育成

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

次世代を担う「人」づくり、郷土意識・地域への愛着心を持った児童生徒の育成を図るため、確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした「生きる力」を育成する教育の推進、「ふるさと」の歴史・文化・自然など、地域の魅力に関する教育の強化、電子黒板※の導入などICT※（情報通信技術）活用による教育環境の構築、学校における食育を推進します。

また、「人」の「生きる力」を未来に伝えていくため、貴重な歴史遺産としての戦争遺跡の保全に努めます。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 「生きる力」を育成する教育の推進
- 「ふるさと」の魅力に関する教育の強化
- ICT活用による教育環境の構築
- 学校における食育の推進
- 貴重な歴史遺産としての戦争遺跡の保全

※ 55ページ以降に用語説明があります。

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
ＩＣＴを活用した授業割合	2%	20%

## ◆ ふるさとへの誇りと愛着心をはぐくむ教育・事業の推進

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

館山市の自然や歴史、文化など、豊かな地域資源を活用した多種多様な生涯学習機会の提供やサークル活動の支援、生涯学習ボランティア制度の活用による学校支援活動の拡充、ふるさと体験活動の推進、森林・里山の保全に向けた活動などを通じて、地域への誇りや愛着心の醸成を図ります。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 生涯学習活動の充実
- ふるさと体験活動の推進
- 森林・里山の保全

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
市民アンケート「館山市への愛着」割合	「愛着がある」「どちらか」というと愛着がある 計 76.1%	「愛着がある」「どちらか」というと愛着がある 計 80.0%

## ◆ 医療・介護環境の充実による健康長寿の促進

持続可能な「まち」

地域医療の安定化や地域住民の健康寿命の延伸を目指すコミュニティ医療※の推進、かかりつけ医※・かかりつけ薬局※の普及・定着に加え、救急医療体制の確保、地域包括ケアシステム※の構築、保健・医療・福祉に関する総合相談体制の整備を図るとともに、館山市に合った「日本版CCRC※」の導入について検討します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 健康づくり活動の推進
- コミュニティ医療の推進
- 地域包括ケアシステムの構築
- 保健・医療・福祉に関する総合相談体制の整備
- かかりつけ医・かかりつけ薬局の普及・定着
- 救急医療体制の確保
- 「日本版CCRC」の導入検討

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
健康づくりに積極的に取り組む市民団体数	20 団体	25 団体

## ◆ 館山の魅力向上に向けた環境整備

持続可能な「まち」

館山市の玄関口である館山駅東口駅前広場を整備し、安全な歩行空間の確保と車両の適正な誘導を図るとともに、市民の憩いの場や観光スポットとしても人気のある城山公園の園路や駐車場等の機能拡充及び市民・行政・企業が一体となった「花のまちづくり」の推進により、館山のまちの魅力向上に努めます。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 館山駅東口駅前広場の整備
- 城山公園の機能拡充
- 花のまちづくりの推進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
城山公園の活用イベント数	5回	7回

## ◆ 公共交通の確保・維持

持続可能な「まち」

市民や公共交通事業者、関係機関と連携・協議しながら、市民や来訪者の移動手段となる生活路線バスの確保・維持に努めるとともに、高速バスや鉄道の利便性向上について、関係機関に働きかけ、広域交通網の充実を目指します。

### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 公共交通の利用促進
- 高速バスネットワークの整備促進
- 鉄道の維持と利便性の向上

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
路線バスの路線数 <sup>注)</sup>	8路線	8路線

注) 季節運行の「観光桟橋線」を除く。

## ◆ 安全・安心なまちづくりの推進

持続可能な「まち」

市民の防災意識の向上、自主防災組織の機能強化等により、地域防災力を高めるとともに、備蓄食糧や各種資機材の整備等による災害対応力の強化、消防団活動への支援等により、防災力の強化・充実を図ります。

また、交通安全対策や防犯対策の強化、増加傾向にある空き家への対策に加え、身近な生活道路や排水整備の推進、道路等社会基盤に係る長寿命化対策の実施等により、安

全・安心なまちづくりを目指します。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 地域防災力の強化
- 災害対応力の強化
- 消防団活動の充実
- 交通安全対策の強化
- 防犯対策の強化
- 空き家対策の推進
- 身近な生活道路や排水整備の推進
- 道路等社会基盤に係る長寿命化対策の実施

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
自主防災訓練実施率	37%	50%
備蓄食糧量（アルファ米※）	1.2万食分	3万食分
防災行政無線デジタル化率	70 %	100%

#### ▼ 官民・広域連携によるまちづくりの推進

持続可能な「まち」

市民やNPO、地域団体等と行政の連携を強化し、より多くの人々が参画する官民連携・協働によるまちづくりを推進するとともに、人口減少問題や地方創生など、共通する地域課題の解決や効果的かつ効率的な行財政運営、行政サービスの向上のため、国・県及び近隣市町とも連携した広域的な視点によるまちづくりを推進します。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 官民連携によるまちづくりの推進
- 地域間連携によるまちづくりの推進
- 多様な主体との連携によるコミュニティの活性化

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
新たな広域連携事業数	－	2件

#### ▼ 地域を守るコミュニティの活性化

持続可能な「まち」

地域に住む一人ひとりが、地域の一員として生きがいを持ち、安心して暮らすことができるよう、コミュニティ事業や町内会活動を促進し、地域における支え合いや連帯感

の醸成、「近所（近助）のちから」の強化により、地域の活性化を図ります。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- コミュニティ事業の推進
- 町内会活動の促進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
町内会加入世帯数  (参考) 平成27年4月1日時点 町内会加入率 89.26% 町内会加入率 ＝町内会加入世帯数÷住民基本台帳世帯数×100	20,213世帯	20,300世帯

#### ◆ 公共施設等の計画的・効果的な利用

持続可能な「まち」

将来の人口規模を見据え、長期的な視点による施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施するため、『公共施設等総合管理計画』を策定し、財政負担の軽減・平準化を図るとともに、利用需要の変化に応じた公共施設の最適な配置を目指します。

#### 【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 『公共施設等総合管理計画』に基づく施設管理

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
公共施設の延床面積  (H27年度末)	148,660 m <sup>2</sup>	118,928 m <sup>2</sup> (H48年度末)

## 用語説明

索引	用語	説明
I	ICT (情報通信技術)	インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー (Information and Communication Technology) の略で、IT (=情報技術) の概念をさらに一步進め、IT に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。
S	SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Networking Service) の略。会員制のサービスで、参加するユーザー（利用者）どうしが互いに自分の趣味・好み・友人・社会生活などのことを公開し合ったりしながら、幅広いコミュニケーションを取り合うことを目的としたコミュニティ型のWeb サイトサービス。
U	UJ'Iターン	都市部から地方に移住する動きの総称。U ターンは出身地に戻る形態、J ターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態、I ターンは出身地以外の地方へ移住する形態を指す。
W	Wi-Fi (ワイファイ)	無線通信を利用してデータの送受信を行うためのコンピュータネットワークシステムの規格のひとつ。
あ	赤ちゃんの駅	乳幼児を連れた保護者が、外出中に安心して自由に授乳やおむつ替えができる設備を備えた公共施設や民間施設等。
	アルファ米	炊いたご飯を乾燥させたもの。長期間の保存が可能で、お湯や水を注ぐだけで食べられる。
	インバウンド	外国人観光客を誘致すること。
か	かかりつけ医	具合が悪くなったときの日常的な診療に利用し、普段の健康状態を熟知して、健康相談・健康管理等を行ってくれる地域の身近な医師のこと。必要に応じて、専門医や専門機関の紹介ができる総合的な能力を有することが望まれる。
	かかりつけ薬局	日常的に利用し、服薬の状況や普段の健康状態、体質を理解してくれている地域の身近な薬局のこと。服薬管理により、重複使用や飲み合わせなどのトラブルを未然に防ぐ役割が期待されている。

索引	用語	説明
か	漁業者インターンシップ事業	館山総合高等学校海洋科の学生を対象に、定置網漁業などの体験を通じ、漁業への興味関心を高め、新規漁業就労者の獲得を目的とした事業。
	グリーンツーリズム	緑豊かな農村地域において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の観光。
	元気な広場	乳幼児とその保護者が自由に利用することができる屋根付公園として、平成21年4月に開館した子育て支援拠点施設。「ファミリー・サポート・センター」を併設している。
	恋人の聖地	NPO法人地域活性化支援センターが主催する「恋人の聖地プロジェクト」により、プロポーズにふさわしい場所として選定されたスポット。館山市は「恋人の聖地／鏡ヶ浦から富士の見えるまち 館山」として、平成27年7月1日に認定されている。
	コミュニティ医療	市民の健康寿命を延ばすため、市民・医療・福祉関係者及び行政関係者が市域を越えて連携し、共に考え、共に実践する共同体として、これから医療、福祉、健康の課題に対して一体的・総合的に取り組むことを基本概念とするもの。
	合計特殊出生率	1年間における出産可能年齢(15~49歳)の女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。
さ	サイクルツーリズム	自転車に乗って地形・自然・景色などを楽しむ、スポーツと観光を融合させた観光。
	サテライトキャンパス	大学や大学院の本部から地理的に離れた場所に設置されたキャンパスのこと。一般市民向けの公開講座や、社会人向け教育サービスの提供などが行われる場合がある。
	シーカヤック	海で使う一人乗りのカヌー。

索引	用語	説明
さ	シティセールス	市の魅力を対外的に売り込むこと。（「シティプロモーション」との明確な使い分けはなく、同義的に使用することも多いが、ここでは「既に存在する」市の魅力を「対外的に」売り込むことを主眼とする場合に使用する。）
	シティプロモーション	地域資源に磨きをかけ、市の新たな魅力を創出するとともに、市内外へ情報発信し、知名度とイメージの向上を図ることで、交流人口の増加や市民の「地域への誇りと愛着心」の醸成につなげることを目的とした活動。（「シティセールス」と同義的に使用されることも多いが、ここでは、市の「魅力創出」に対する取組や、「対内的な」視点も含むものとして使用する）
	出張子育てひろば	「元気な広場」の出張版として、各地区（平成27年度現在：船形・九重の2箇所）に「元気な広場」のスタッフが出向き、母親どうしの交流や子ども達の遊び場を提供するもの。
	純移動率	ある期間、ある人口に対する転出入の移動数の比率として計算される統計数値。
	人口置換水準	人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率（＊合計特殊出生率の用語説明参照）の水準のこと。
	スタンドアップパドルボード	サーフボードの上に立ったまま乗り、オール（パドル）を使って漕ぐマリンスポーツ。
た	地域おこし協力隊	地方自治体が募集を行い、意欲ある都市住民を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらうことで、その定住・定着を図るとともに、地域の活力を維持・強化することを目的とする。 3大都市圏、政令指定市等から過疎地などへの移住・定住を促すため、総務省が平成21年度に創設した制度。
	地域包括ケアシステム	高齢者に対して、介護が必要になっても、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の5つのサービスを、関係者が連携・協力して、一体的に提供する仕組み。

索引	用語	説明
た	地産地消推進店	館山産の安全で新鮮な農水産物を積極的に消費者に提供するなど、地産地消を推進している直売所や飲食店などで、「館山市地産地消推進店」として登録したもの。
	ツーリング	自転車やオートバイなどで旅に出ること。
	電子黒板	文字や図、イラストなど、ボード上に書き込んだ内容を電子変換することで、プリンタ出力やデータ保存、スキャン送信が可能となったホワイトボードのこと。
	トップセールス	市長自らが宣伝マンとなって、市の特徴や優位性、地域の産物・産業を、他地域・企業等に売り込むこと。
な	二地域居住	都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を地方で暮らすなど、2つの地域に生活拠点を持つ生活形態。
	日本版CCRC	CCRCは、米国発祥のコンティニューイング・ケア・リタイアメント・コミュニティ（Continuing Care Retirement Community：継続介護付きリタイアメント・コミュニティ）の略。 日本版CCRCは、老後を地方で暮らしたいという、東京圏を中心とした高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康で活動的な生活を送るとともに、医療介護が必要になった時も住み替えることなく、継続してケアが受けができる地域づくりをすること。 東京圏の高齢化問題を解消しつつ、地方への人の移動を促進しようという意義を含んでいる。
は	パブリシティ	プレスリリース（報道機関への発表）などにより、事業等に関する情報を積極的に報道機関に提供し、ニュースや記事として報道されるように働きかける広報活動。
	ビーチコーミング	海岸の砂浜に打ち上げられた漂着物（流木や貝殻、サンゴ、丸石、ウニ、ヒトデ、ガラスの破片など）を観察、収集すること。漂着物は標本にしたり細工を施したりして楽しむ。

索引	用語	説明
は	ファミリー・サポート・センター事業	育児の手助けをしてほしい人と育児の手助けができる人が会員となり、会員どうしで助け合う子育て支援活動事業。
	フィルムコミッショング	映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、撮影をスムーズに進めるための支援をする機関。
	フェイスブック (Facebook)	ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の1つで、実名登録により、友達・同級生・同僚・近所の人たちなどとインターネット上でつながり、交流できるサービス。
	フォローアップ	進捗状況や結果などを調査・検証し、さらなる強化・改善のための修正等を行うこと。
	ブラッシュアップ	磨き上げること。一段と優れたものにすること。
	ブルーツーリズム	漁村地域に滞在し、漁業体験や海辺での生活体験を通して、地域との交流を深め、海の魅力を楽しむ観光。
	プロモーション	市の魅力を売り込むための宣伝活動全般。
	放課後子供教室	小学校の余裕教室等を活用し、地域住民の協力によって、放課後に、子供たちが学習やスポーツ・文化活動等ができるよう支援する取組。
	ポートセールス	港の管理者が関連企業等に自らの所有する港のメリットを説明し、船舶や貨物の寄港を誘致すること。
ま	孫ターン	都市部から地方へ、両親いずれかの出身地に、親世代を1世代飛ばして移住する孫たちの動きのこと。
	マッチング	異なるものを組み合わせること。
	ミスマッチ	釣り合わないこと。 「雇用のミスマッチ」という場合は、勤務条件や待遇、必要な能力など、求人側の企業と求職者の間における求めるものの意識のずれのこと。

索引	用語	説明
ま	みなとオアシス	海浜・旅客ターミナル・広場など、みなとの施設やスペースを活用し、住民参加型の継続的な地域振興を行う交流拠点について、申請に基づき、国土交通省が認定を行うもの。
ら	リリース	ここでは、報道機関に対してニュースや情報を発表すること。
	レガシー（遺産）	ここでは、オリンピック・パラリンピック開催を契機とした各種基盤整備やスポーツ振興、それに伴う生活の利便性の向上、市民の健康増進など、ハード・ソフト両面において、長期的に持続的な効果を社会に生み出し、次世代に残していくこと。
	6次産業化	農林水産物を収穫・漁獲（第1次産業）するだけでなく、加工（第2次産業）し、流通・販売（第3次産業）まで手がけること。

